

平成14年度 年間分析版

授業アンケート

[設問A～I 調査結果報告書]

金沢工業大学

INDEX

<1> 全体概略	2
<2> 回答者の属性	3
<3> 単純集計	4
<4> クラス別比較	7
<5> 学系別比較	10
<6> 科目区分別比較	13
<7> 成績別比較	16
<8> 学系別科目区分別評価	19
<9> 学期別比較	25
<10> まとめ	29
<11> 調査票見本	31

<1> 全体概略

1) 調査の概略

本調査の概略は下記の通り。

- 平成14年度の春、秋、冬にKIT在校生に対して実施した「授業アンケート」の全結果を分析対象とした。
- 本調査は、受講した学生から既存のカリキュラムの評価を聞き、今後のカリキュラムのあり方を考えるためのベースデータを得ることを目的としている。
- 集計の対象としたデータは94,898件であり、内訳は下記の通り。
春:37,232件 秋:30,693件 冬:26,973件
- 実施期間:各授業科目の最終日
- 実施方法:記名式で科目担当教員が授業アンケートを配付ならびに回収

2) 分析読み込み時の注意

分析に関しては内容を簡潔に分かりやすく表現するために加重平均などを利用したが、下記のような注意点が挙げられる。

- 下記の設問は「良かった」-「まあ良かった」-「あまり良くなかった」-「良くなかった」など、段階的な選択肢で回答が得られ、加重平均を取ることが可能であるため、加重平均で集計を行った。加重値は下記の通り。
- 見やすくするために同一の目盛でグラフ化しているが、選択肢の数・加重値が異なるため、比較はできない。また、加重平均の中央値が0にならないケースもある。

A)この科目は興味を持って受講することができましたか？	十分に持てた +3点	持てた +2点	どちらかといえば持てた +1点	あまり持てなかった -1点	持てなかった -2点
D)学習支援計画書の記載内容は理解できましたか？	よく理解できた +2点	理解できた +1点	あまり理解できなかった -1点	理解できなかった -2点	
E)教科書・指導書の内容は理解できましたか？	よく理解できた +2点	理解できた +1点	あまり理解できなかった -1点	教科書・指導書はなし 0点	
G)課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか？	十分に役立った +2点	役立った +1点	役立たなかった -1点	課題・レポート等はなし 0点	
H)オフィスアワーはあなたの学習に有益でしたか？	大変有益 +2点	有益 +1点	あまり有益でない -1点	有益でない -2点	利用しなかった 0点
I)自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか？	大変効果的 +3点	効果的 +2点	どちらかといえば効果的 +1点	あまり効果的でない -1点	効果的でない -2点

- また、以下の設問は内容的に加重平均による分析ができないため、個別の帯グラフで分析を行った。

B) 一回の授業に対する学習(予習・復習)はどの程度行いましたか？

C) 授業の分からない点はどの様に行動しましたか？(OH:オフィスアワー)

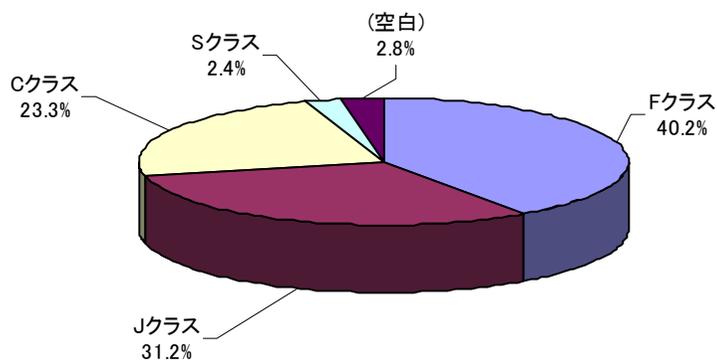
F) 授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか？

- これらの設問、選択肢の設定は、今後改善していく予定である。

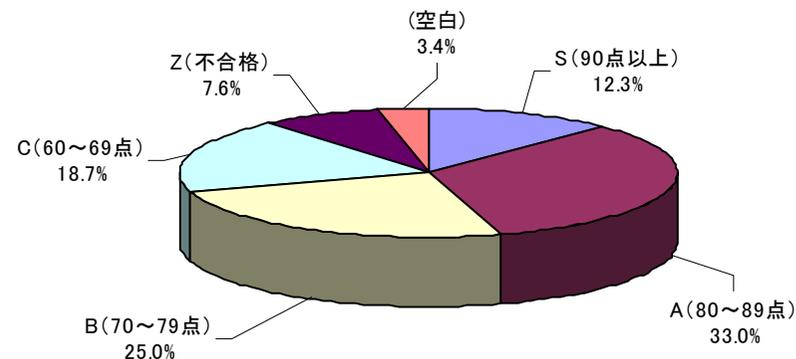
<2> 回答者の属性

- クラス別ではFクラスが最も多く40.2%であり、Jクラスが31.2%、Cクラスが23.3%、Sクラスは2.4%というものであった。
- 学系別では、最も多かったのがM(機械系)であり、20.9%、次いでD(情報系)18.2%、E(電気系)16.7%という順であった。
- 成績別では、90点以上のSが12.3%、80~89点のAが最も多く33.0%、70~79点のBは25.0%であった。不合格のZには成績のD、E、Fが含まれるが、合計で7.6%であった。

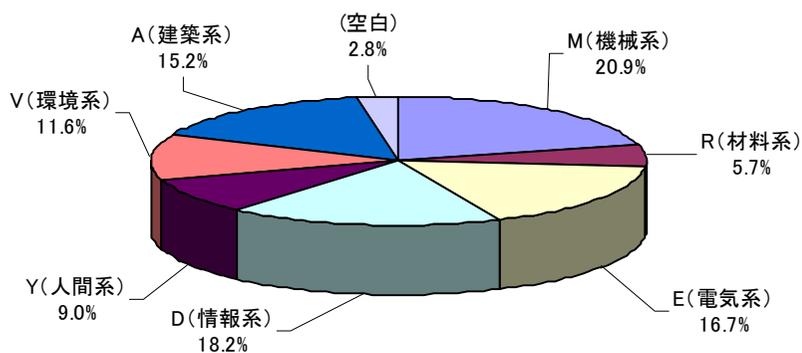
回答者のクラス分類



回答者の成績分類



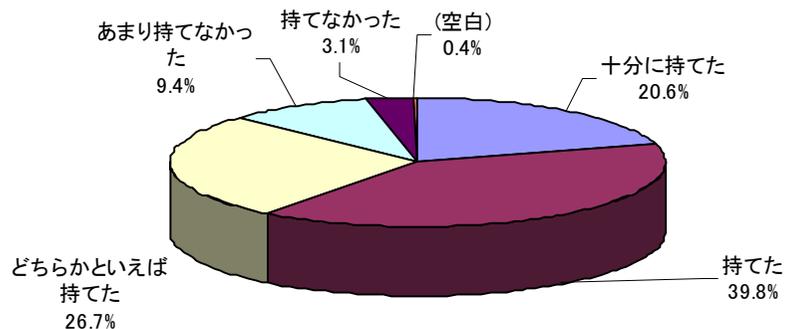
回答者の学系分類



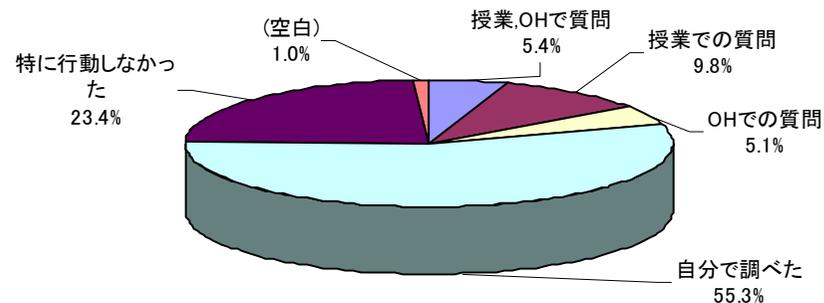
<3> 単純集計

- 全体傾向であるが、科目への興味は「十分に持てた」が20.6%、「持てた」が39.8%であり、「どちらかといえば持てた」の26.7%まで合わせると、87.1%が「科目に興味を持てた」と回答していたことになる。
- 一回の授業に対する学習時間は、「学習しなかった」という回答が31.6%で最も多く、次いで「30分程度」が25.9%という回答であった。
- 授業の分からない点に関しては、55.3%と半数以上が「自分で調べた」と回答しており、次いで23.4%は「行動しなかった」と答えている。
- 学習支援計画書に関しては、「理解できた」という回答が63.0%であり、「よく理解できた」の13.3%と合わせると、76.3%が「理解できた」と回答しているという結果であった。

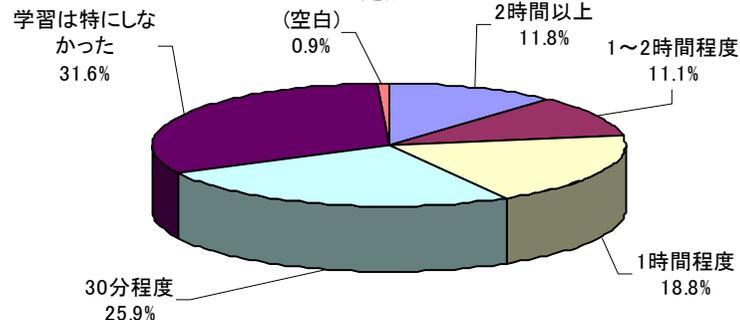
A) この科目に興味を持って受講することができましたか？



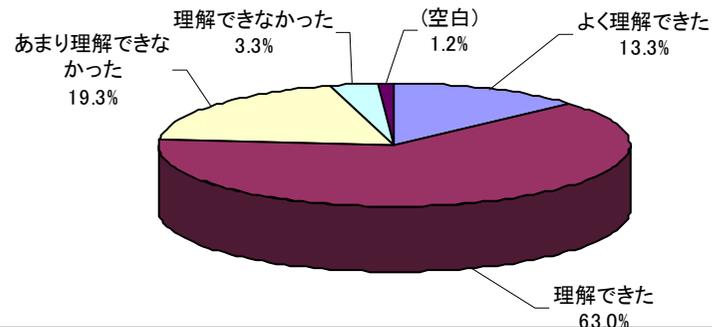
C) 授業の分からない点はどの様に行動しましたか？
(OH: オフィスアワー)



B) 一回の授業に対する学習(予習・復習)はどの程度行いましたか？

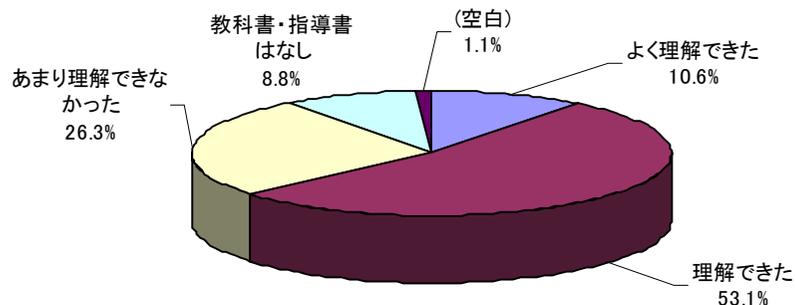


D) 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか？

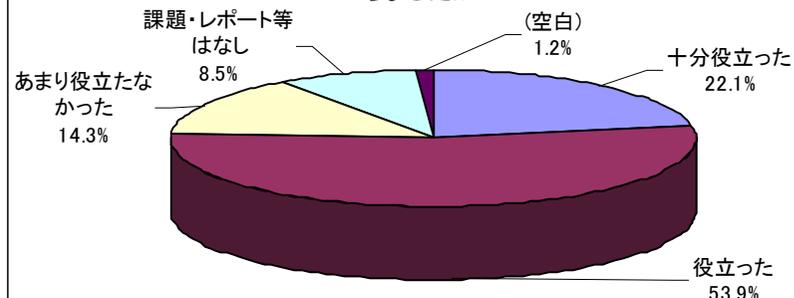


- 教科書・指導書の内容に関しては、「よく理解できた」は10.6%であったが、「理解できた」は53.1%であり、約6割は理解できていた。
- 授業の進度に関しては、設問の設定に問題があったが、「どちらかといえば適切」が48.5%、「適切」が27.3%であり、それほど問題はなかったものと思われる。
- 課題やレポートの評価では、「役立った」が53.9%と過半数であり、「十分役立った」(22.1%)と合わせると8割弱が良い評価であった。
- オフィスアワーに関しては、67.8%が「利用しなかった」と回答しており、利用率が非常に低かったことが分かる。逆に、「大変有益」が6.5%、「有益」が15.8%であり、有益であると回答した学生は約2割であった。

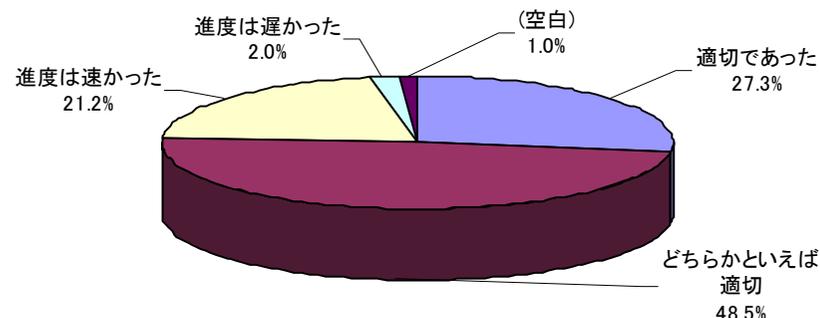
E) 教科書・指導書の内容は理解できましたか？



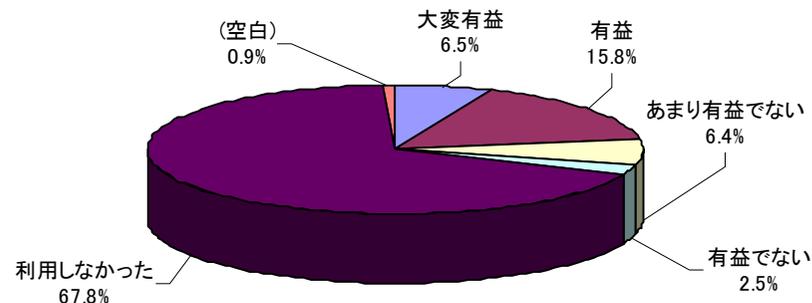
G) 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか？



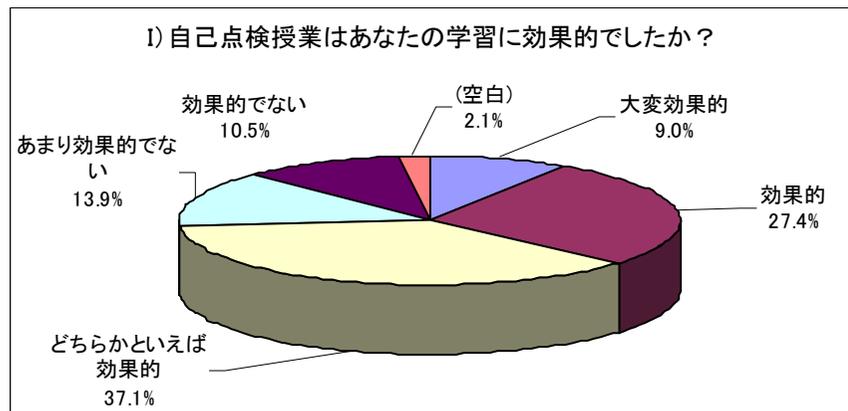
F) 授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか？



H) オフィスアワーはあなたの学習に有益でしたか？



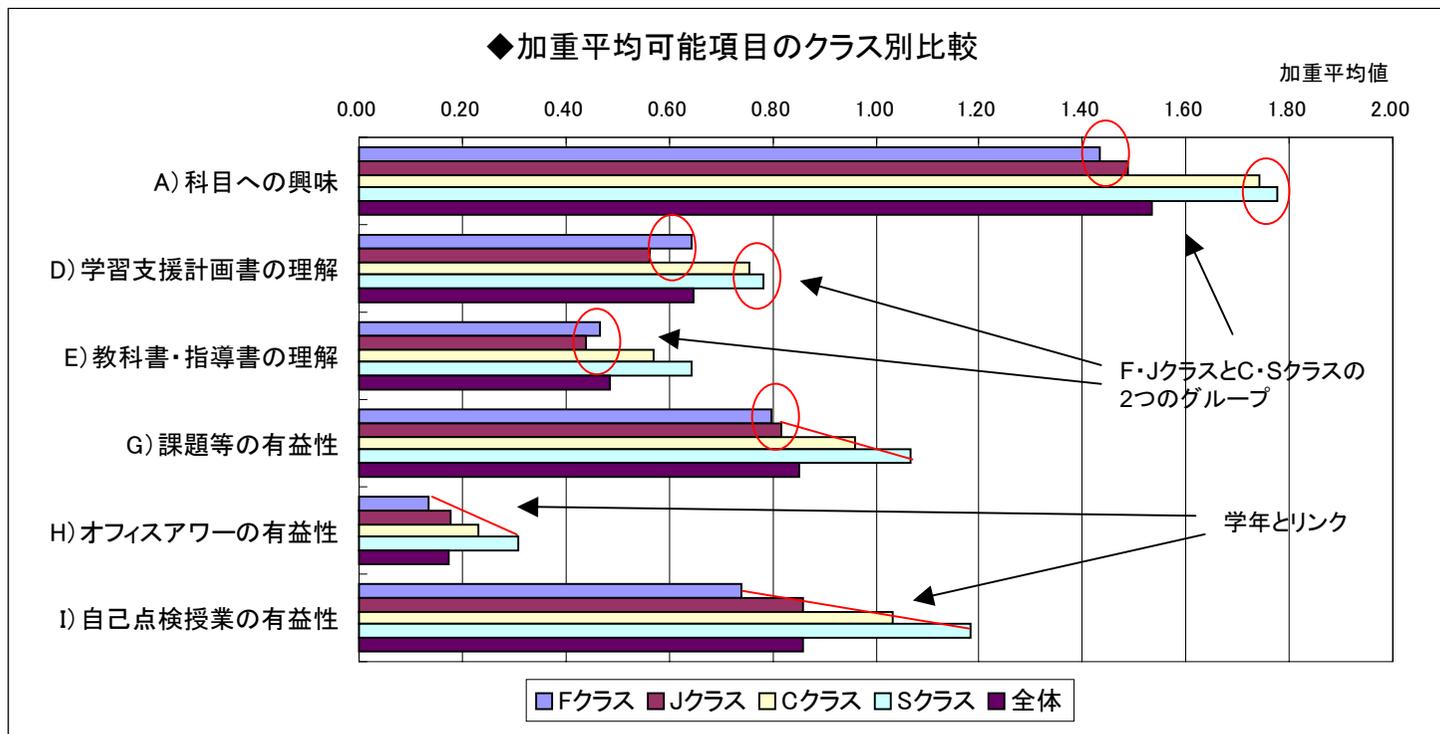
- 自己点検授業は、「大変効果的」は9.0%にとどまったが、「効果的」は27.4%であり、「どちらかといえば効果的」の37.1%と合わせると、73.5%は「効果がある」と認めているという結果となった。



<4> クラス別比較

1) 加重平均で分析可能な質問に関して

- 春、秋、冬と同様の結果であるが、「科目への興味」はFクラスとJクラスが同程度のポイントで、CクラスとSクラスが同程度であった。Jクラスは大学に慣れた中だるみだと思われるが、新鮮な状態だと思われるFクラスで科目に興味を持っていないということは問題だと思われる。
- 「学習支援計画書の理解」はJクラスが最も低かったが、これも大学にある程度慣れたという中だるみではないかと思われる。
- 「教科書・指導書の理解」も高学年になるほど理解が高まる傾向が見られた。ここでも、F・JクラスとC・Sクラスの差が大きかった。
- 「課題等の有益性」に関しては、F・Jクラスが同程度であり、Sクラスのポイントが最も高かった。
- 「オフィスアワーの有益性」は学年とリンクしており、Sクラスが最も有益性を認めていた。また、「自己点検授業の有益性」も学年とリンクしていた。低学年のFクラスは「オフィスアワー」や「自己点検授業」の意義をどこまで理解しているかも疑問である。
- クラス別の結果を見ると「オフィスアワー」や「自己点検授業」などの自主的なものは、高学年ほど有益性を感じている傾向が見られた。その他の項目では、F・JクラスとC・Sクラスの2つのグループに分かれていた。これは中だるみや授業の専門性などが関連していると思われる。



※グラフは、「良かった」「まあ良かった」「あまり良くなかった」「良くなかった」など、段階的な選択肢で回答が得られ、加重平均を取ることが可能な項目だけを列挙した。

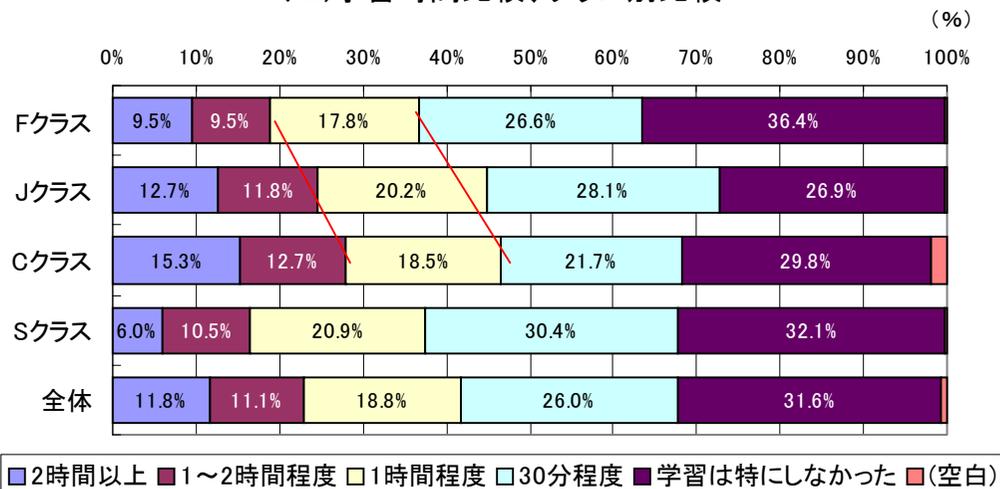
※ただし、各設問によって選択肢の設定の仕方、選択肢の個数が異なるため、各々の結果を横断的に比較することはできない。

※加重平均の考え方、加重などに関しては、前述の<1>全体概略の通り。

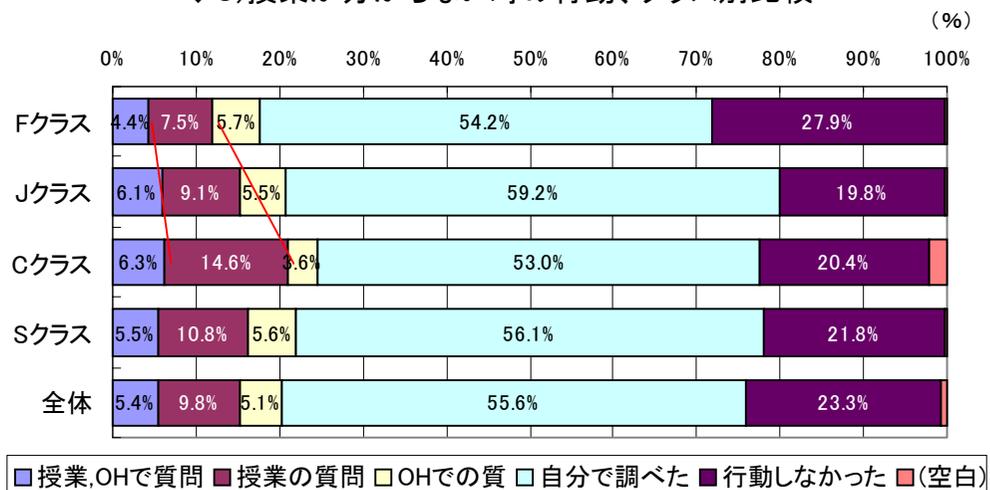
2) 加重平均で分析不可能な項目に関して

- 学習時間は全体では「学習は特にしなかった」という回答が最も多く3割程度であった。
- 学習時間を取っている学生でも「30分程度」が最も多く、26.0%であった。他の大学との比較や年度による時系列変化を見る必要があるが、決して学習時間が長いとはいえない。
- Sクラスを除くと高学年ほど学習時間が長くなる傾向が見られ、Cクラスが最も長かった。
- Sクラスは自宅で学習するよりも学内で卒業研究をしている時間が長いいため、自宅での学習時間が短くなるのではないかと予想される。
- 授業が分からない時の行動に関しては、「自分で調べた」という回答が55.6%と全体の過半数であった。
- 「行動しなかった」はFクラスで最も多く、学習の進め方の理解が浅く、大学に慣れていないため、サポートの仕組みを有効利用できていないと考えられる。
- 積極的に質問しているのはCクラスが最も多く、Sクラスは少し少な目であった。Sクラスが少なかったのは、カリキュラムが専門的になり、進め方が変わってきているからではないかと思われる。
- 授業で分からない点があっても「行動しなかった」という回答が23.3%であった。これらの割合を減らすためには、学生のニーズを聞き、授業の進め方を見直したり、各種のサポートの仕組みをより使いやすくするなどの工夫が必要だと思われる。

◆B)学習時間比較、クラス別比較

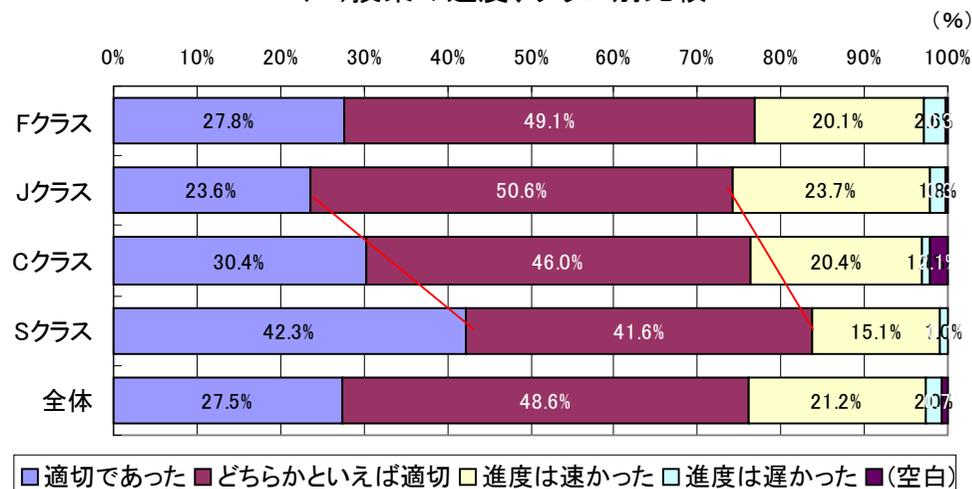


◆C)授業が分からない時の行動、クラス別比較



- 授業の進度に関しては、Sクラスで「適切であった」という回答が最も多かった。
- また全体としては、Fクラスを除くと、低学年になるほど「速度は速かった」と感じている傾向が見られた。
- 「適切であった」と「どちらかといえば適切」を合わせると、7～8割程度は授業の進め方に問題を感じていないといえる。
- FクラスはJクラスよりも授業の進め方に問題は感じていなかった。これにはカリキュラムの専門性の度合いなどが関係していると思われる。

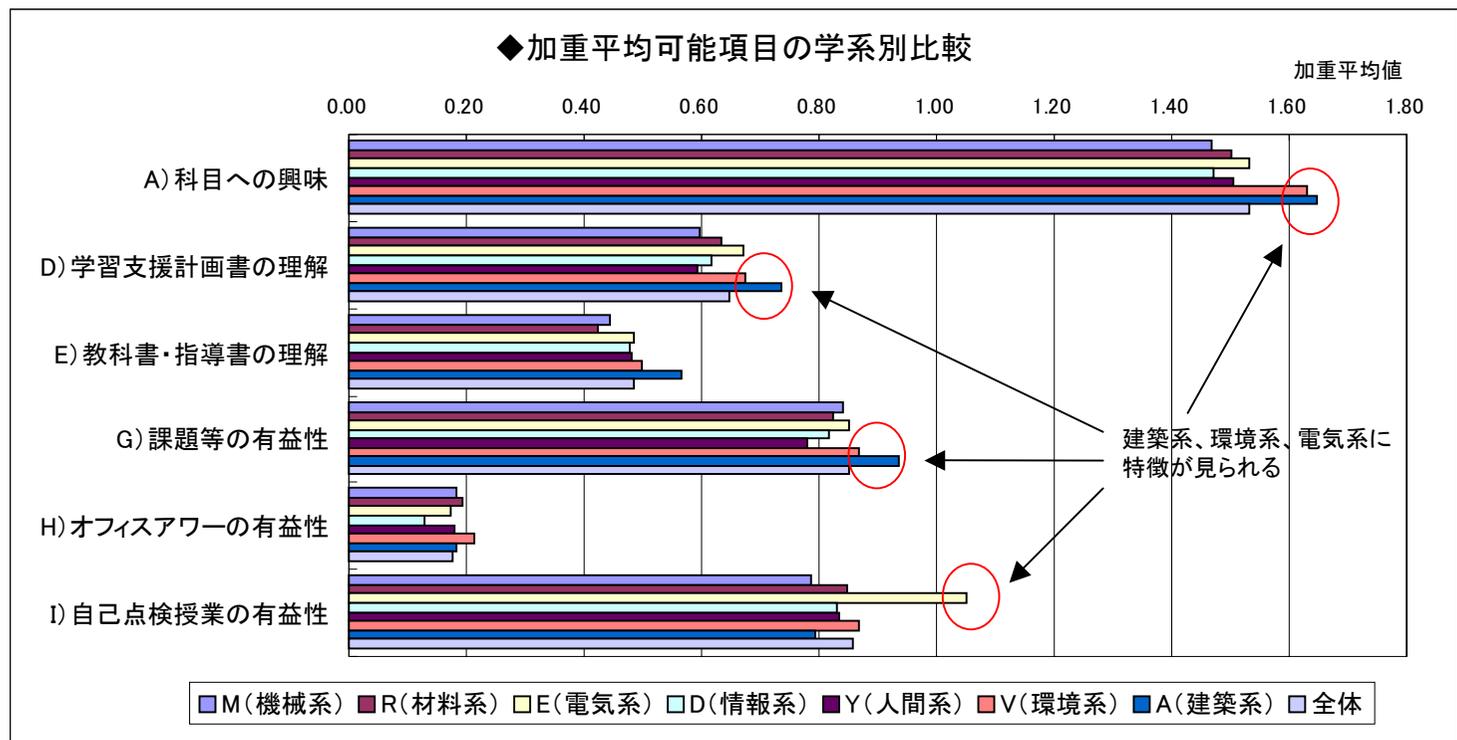
◆F)授業の進度、クラス別比較



<5> 学系別比較

1) 加重平均で分析可能な質問に関して

- 「科目への興味」に関しては「環境系」「建築系」が高かったが、他の学系ではそれほど差がなかった。
- 「学習支援計画書の理解」「課題等の有益性」でも「環境系」「建築系」のポイントが少し高めで、「電気系」がそれに次いでいた。これらを見ると、「環境系」「建築系」が積極的にカリキュラムに取り組んでおり、理解度も高いと解釈できる。
- 「オフィスアワーの有益性」に関しては差が少なかったが、「環境系」のポイントが高めで、「情報系」が低めであった。
- 「自己点検授業の有益性」に関しては、「電気系」の評価がかなり突出していた。
- 全体を見ると、「環境系」と「建築系」が科目に興味を持ち、「学習支援計画書の理解」「課題等の有益性」もポイントが高かった。また、「自己点検授業」に関しては「電気系」からの評価が非常に高いことが確認できた。



※グラフは、「良かった」「まあ良かった」「あまり良くなかった」「良くなかった」など、段階的な選択肢で回答が得られ、加重平均を取る事が可能な項目だけを列挙した。

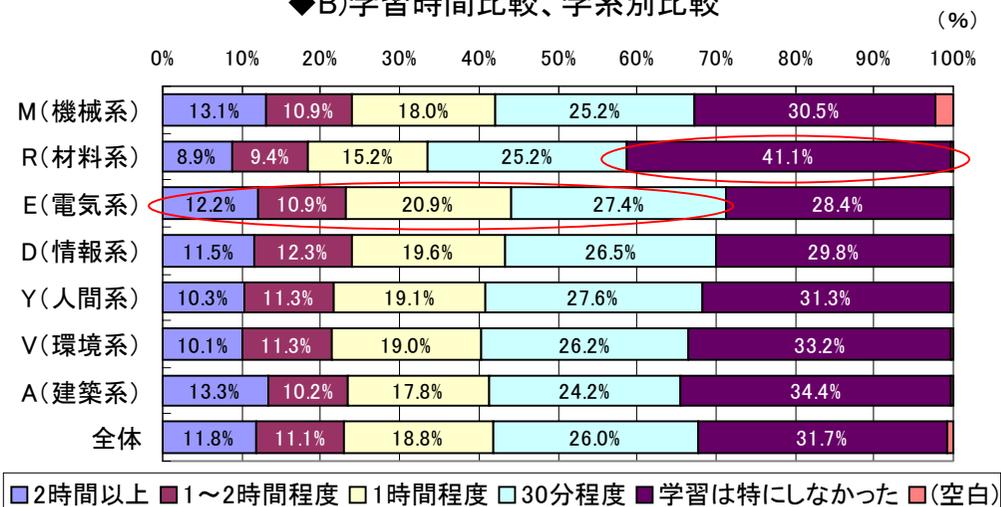
※ただし、各設問によって選択肢の設定の仕方、選択肢の個数が異なるため、各々の結果を横断的に比較することはできない。

※加重平均の考え方、加重などに関しては、前述の<1>全体概略の通り。

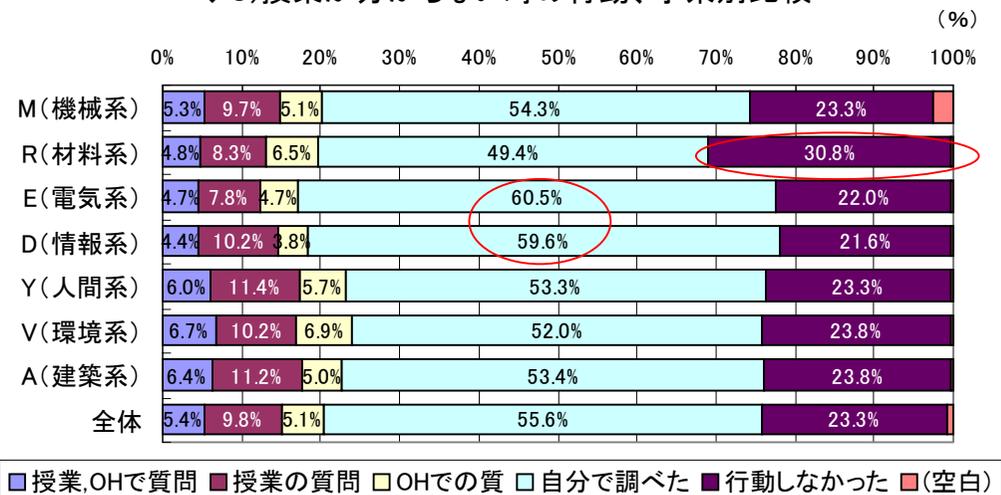
2)加重平均で分析不可能な項目に関して

- 学習時間が「2時間以上」では「建築系」(13.3%)、「機会系」(13.1%)、「電気系」(12.2%)という順であった。
- しかし、「30分程度」までを合計すると「電気系」がトップであり、最も勉強しているといえる。
- 逆に「学習は特にしなかった」という回答が最も多かったのは「材料系」であり、41.1%は勉強をしていなかった。
- 全体的に見ると、「電気系」「情報系」がよく学習しており、「材料系」が最も学習時間が短かった。
- 授業が分からない時の行動に関して、「行動しなかった」に注目すると、「材料系」が最も多く、30.8%は何も行動していない。
- 上記と合わせて考えると「材料系」は授業で分からない時もそのままにしており、授業のための学習時間も最も短いといえる。
- その他の学系では、それほど大きな特徴はないが、「電気系」「情報系」は自分で調べる傾向が強いといえる。

◆B)学習時間比較、学系別比較



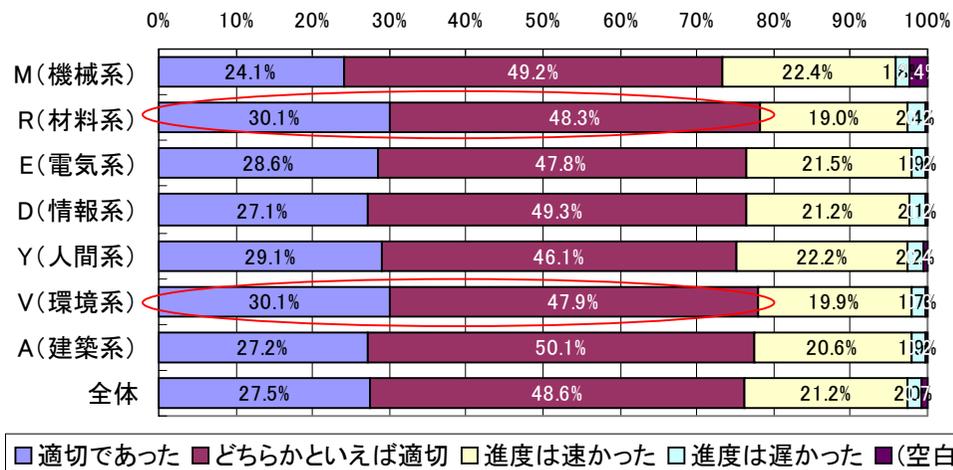
◆C)授業が分からない時の行動、学系別比較



- 授業の進度に関しては、学系による差は大きくなく、ほとんどないといえる。
- 強いていえば、「材料系」「環境系」は授業の進度が適切であると感じている。
- 全体的に見ると、約2割は速めに感じているものの、それほど大きな問題はないと思われる。

◆F)授業の進度、学系別比較

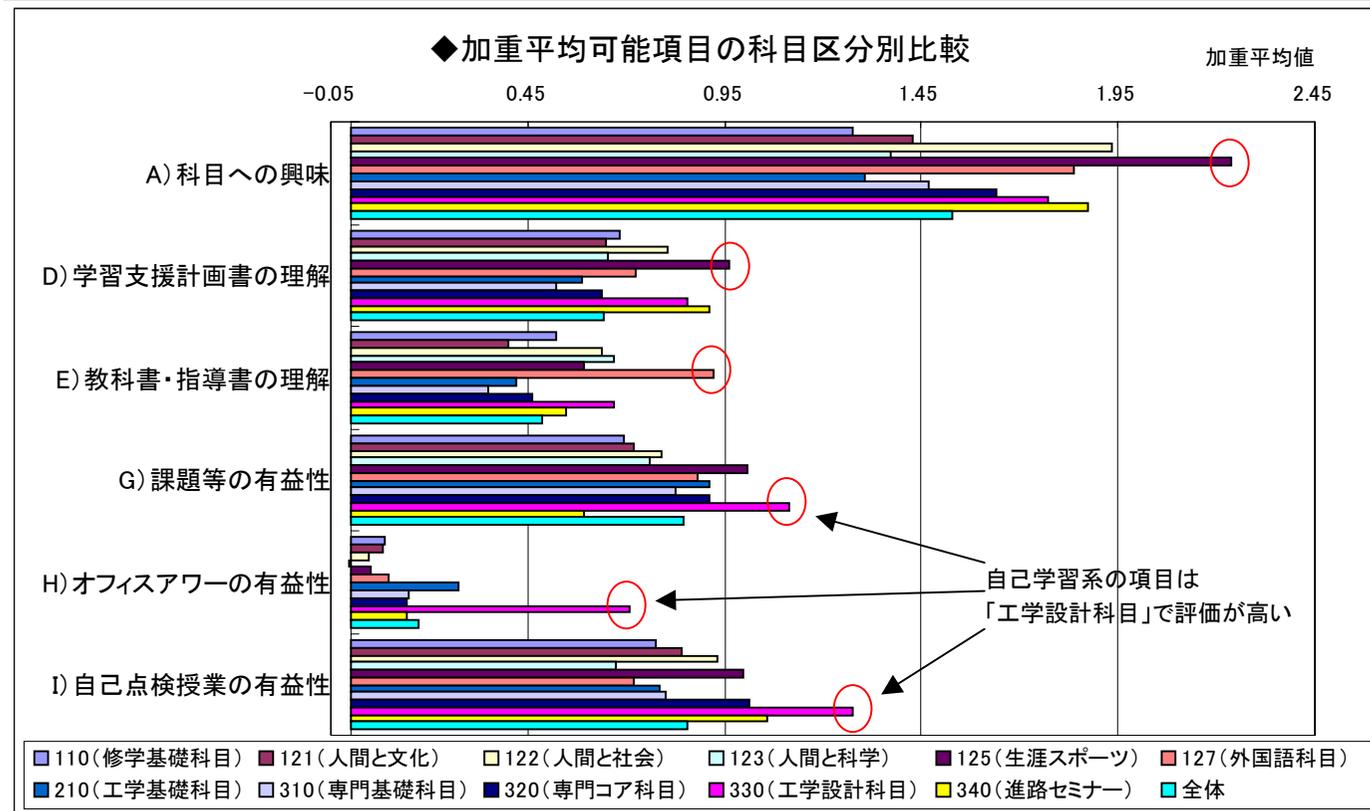
(%)



<6> 科目区分別比較

1)加重平均で分析可能な質問に関して

- 科目区分別に「興味」を見ると、「生涯スポーツ」が最も興味を集めていた。次いで「人間と社会」「進路セミナー」「外国語科目」であり、これらを見ると「興味」というよりも、「分かりやすい」「取り組みやすい」という判断基準にも思える。
- 興味が低いのは「修学基礎科目」「工学基礎科目」「人間と科学」などであり、詳細は不明であるが専門性が低いものともいえる。
- 「学習支援計画書」に関して、理解度が高かったのは「生涯スポーツ」「進路セミナー」「工学設計科目」であった。理解度が低かったのは「専門基礎科目」「工学基礎科目」であった。
- 「教科書・指導書の理解」では「外国語科目」が突出していた。低いのは「専門基礎科目」「人間と文化」「工学基礎科目」などであった。
- 「課題等の有益性」を感じていたのは、「工学設計科目」「生涯スポーツ」などであった。「生涯スポーツ」に課題があるかどうかは疑問であるが、「工学設計科目」は課題が評価されていることが確認できた。課題が評価されていないのは「進路セミナー」であった。



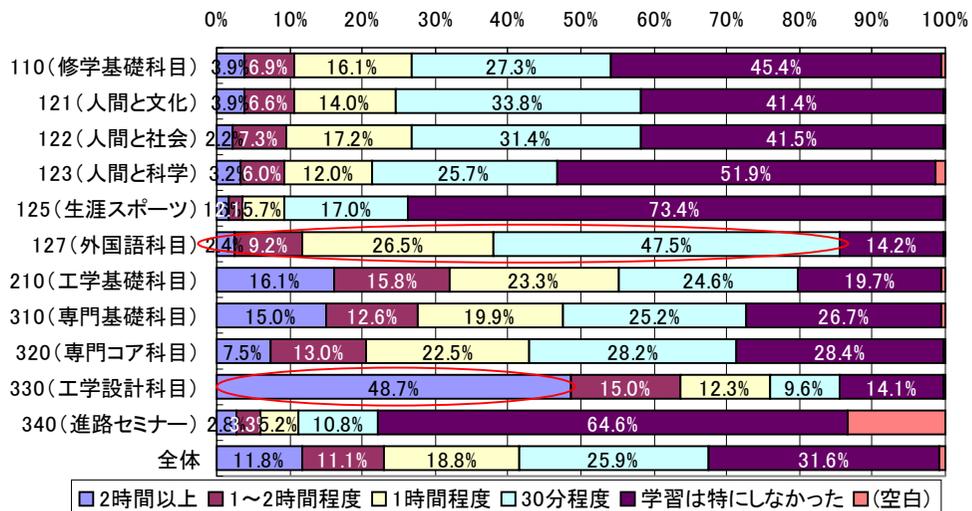
- 「OHの有益性」では、「工学設計科目」が非常に突出しており、有益と受け止められている。
- この差には何らかの理由があるはずであるが、それを究明することは重要だと思われる。
- 「自己点検授業」は、「工学設計科目」で最も有効に機能しているようであった。
- 自分で学習するような項目は「工学設計科目」で非常に高く評価されていた。

2) 加重平均で分析不可能な項目に関して

- 科目区分による「学習時間」の違いを見ると、「学習は特にしなかった」という回答は「生涯スポーツ」「進路セミナー」で非常に多く、全体の6～8割が「学習は特にしなかった」と回答していた。
- 学習時間が長かった科目に関しては2つの見方ができる。まず、「学習は特にしなかった」という回答が少なかったのは「外国語科目」と「工学設計科目」であった。
- また、「2時間以上」が最も多かったのは「工学設計科目」であった。
- 「外国語科目」には、それほど長い時間ではないが、日々少しずつの学習時間が割り当てられていることが分かる。
- 全体的に見ると「工学設計科目」「工学基礎科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」と、専門科目には学習時間が長めに割かれているといえる。
- 「授業が分からない時の行動」に関する回答を見ると3つのパターンに分けられる。
- まず、「工学設計科目」は最も積極的に質問がされており、「行動をしなかった」という回答も最も少なかった。
- 次に、「外国語科目」と専門的科目(工学基礎科目、専門基礎科目、専門コア科目)はやや積極的であり、「行動しなかった」という割合も少な目であった。
- 3つ目は一般科目(専門以外)であり、「行動しなかった」という回答が3～4割見られた。
- ここでは「工学設計科目」での積極的な行動が際立っていた。学習時間も非常に長く、分からない時も積極的に行動していることが分かった。

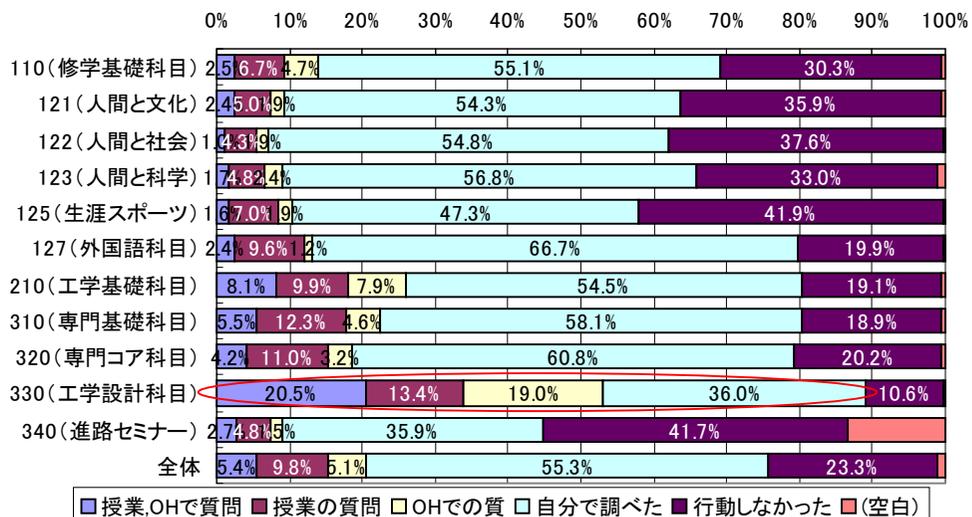
◆B)学習時間比較、科目区分別比較

(%)

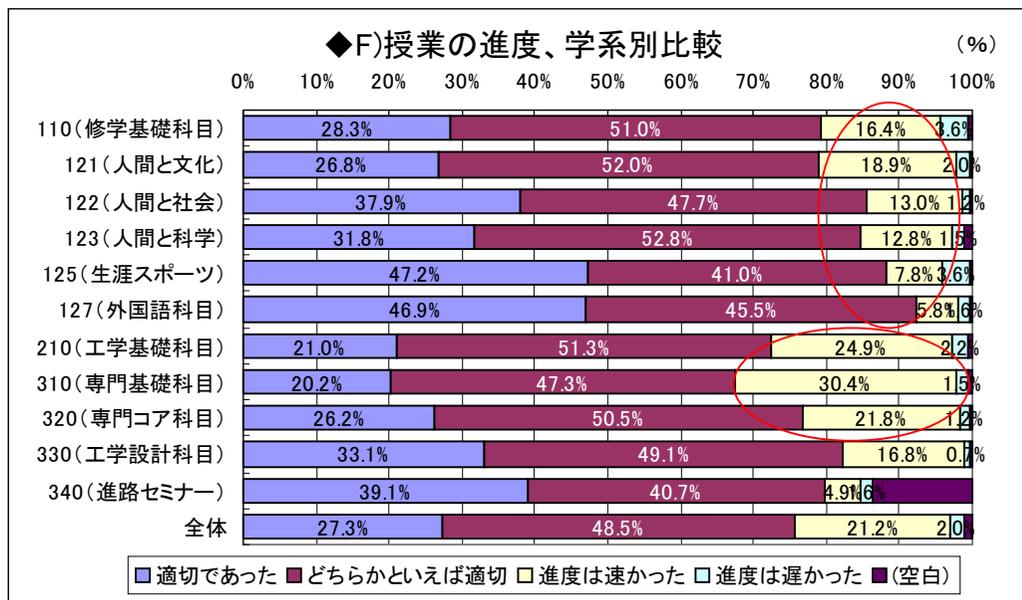


◆C)授業が分からない時の行動、科目区分別比較

(%)



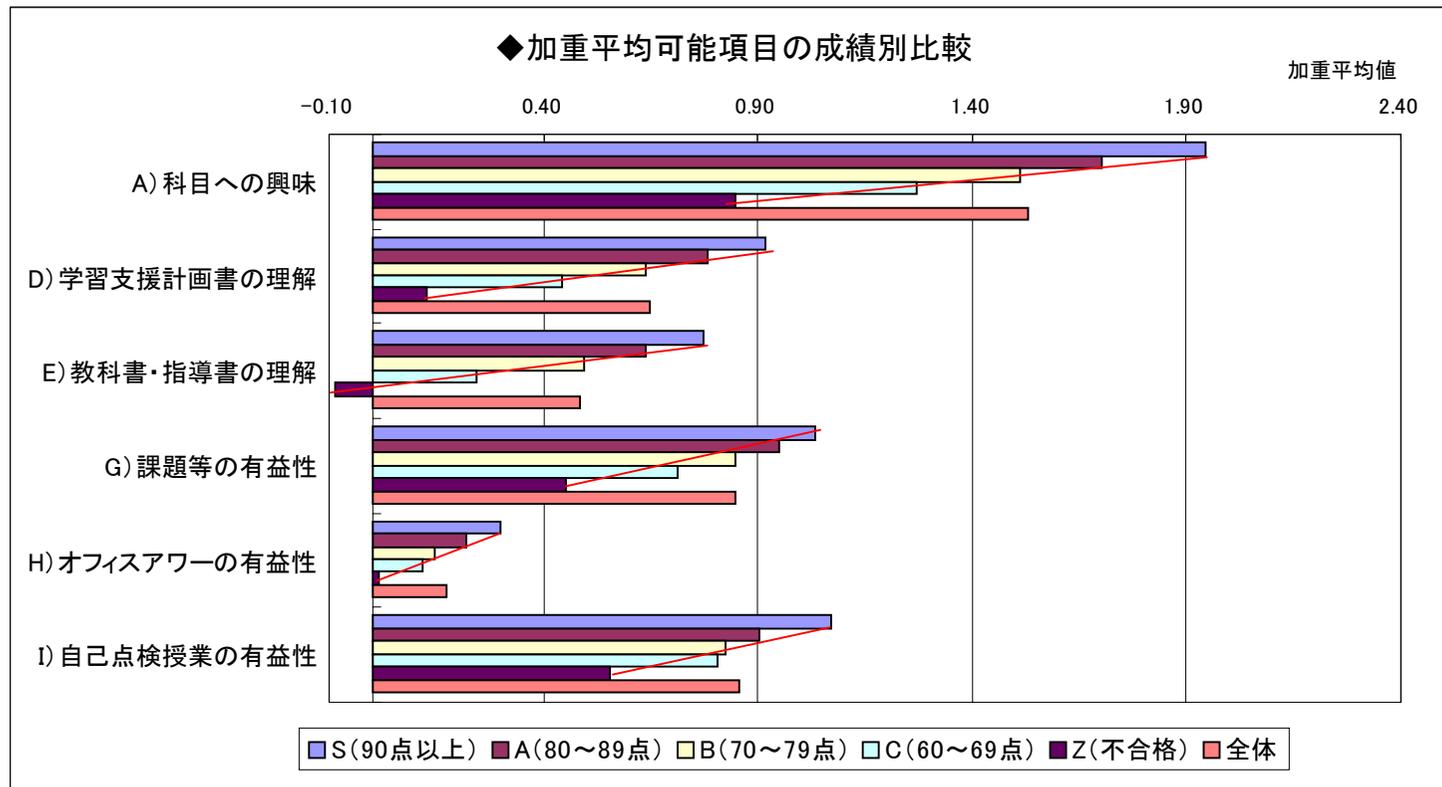
- 「授業の進度」に関しても、専門的な科目と一般的な科目で差が見られ、専門的な科目は進度が速かったと感じられており、一般的な科目の方が適切であると評価されていた。
- 特に「専門基礎科目」「工学基礎科目」「専門コア科目」は速めに感じている回答が2割以上あった。
- 「生涯スポーツ」「外国語科目」は進度に問題を感じている割合は少なかった。



<7> 成績別比較

1)加重平均で分析可能な質問に関して

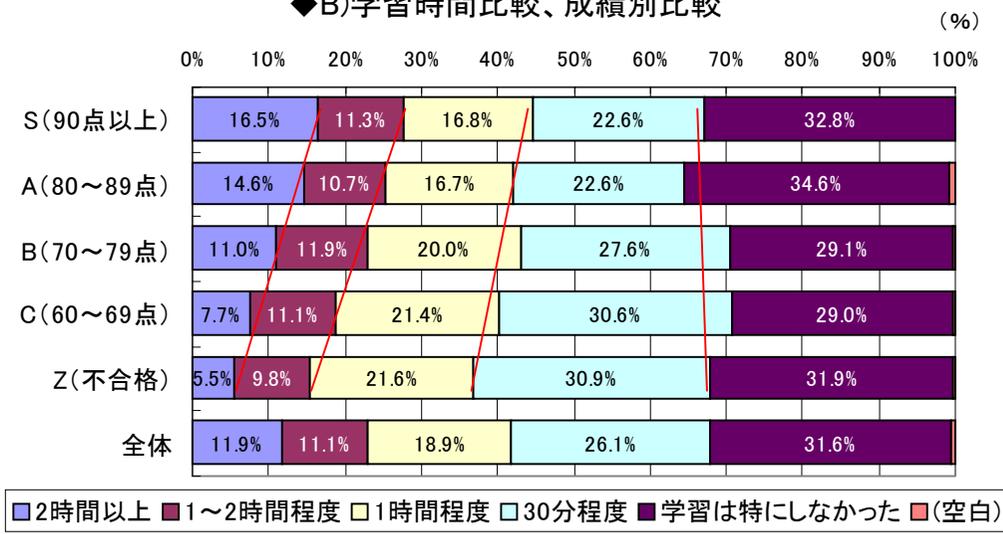
- 成績による比較では非常に明確な傾向が見られた。どの項目でも、成績が良いほどポイントが高い。
- 「科目への興味」に関しては、成績が良いほど興味が増しているという全体傾向が明確に現れており、その差もかなりはっきりしていた。
- 「学習支援計画書の理解」に関しても、成績が良いほどよく理解できていることが確認できる。
- 「教科書・指導書の理解」も同様であり、「不合格者」はマイナスポイントとなっており、理解できない学生の方が多いことが分かった。
- 「課題等の有益性」「OHの有益性」「自己点検授業の有益性」に関しても全く同じ傾向であり、成績が良いほど各々の項目の有益性を感じていることが確認できた。
- これらより、成績が「科目への興味」「学習支援計画書の理解」「教科書等の理解」と完全にリンクしていることが確認できた。この傾向は各学期と全く同じであった。当然ながら成績の良い学生は授業に興味を持ち、各種資料の理解度も高いことが確認できる。



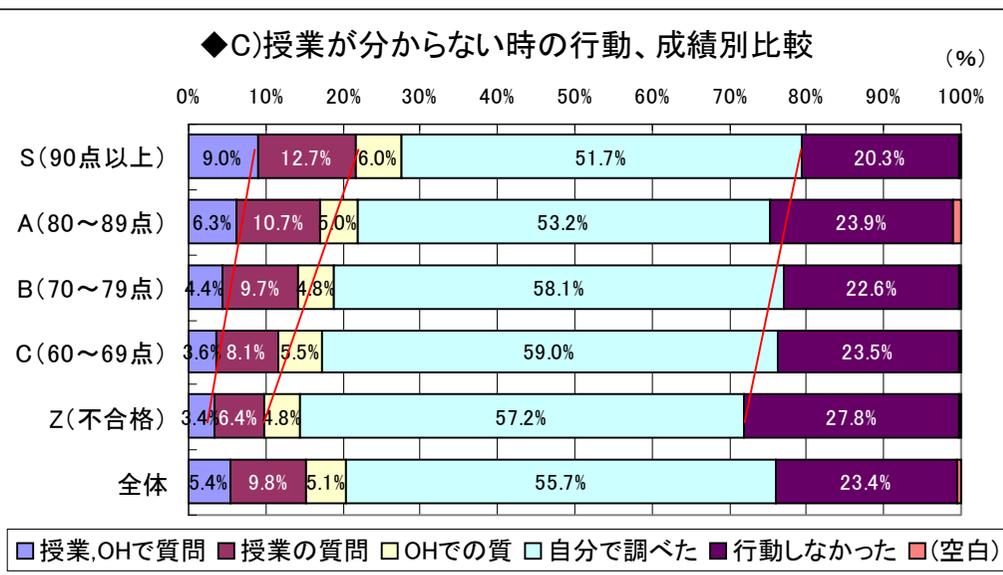
2)加重平均で分析不可能な項目に関して

- 学習時間と成績を見ても、明確な関連性が見られた。
- まず、「2時間以上」の学習は成績が良いほど多かった。
- 「1～2時間」は成績との関連性は薄く、どの層でも1割程度であった。
- 成績が悪いほど「1時間」「30分」が増加し、学習時間を割いていない状況が分かる。
- 「学習しなかった」という回答は成績との関連性は見られず、どの層でも3割程度見られた。成績が良い学生の中にも学習時間を取っていないグループがいることが分かる。
- 授業が分からない時の行動も成績との関連性が見られた。
- 成績が良いほど授業やOHで質問している傾向がはっきりと見られる。
- 「自分で調べた」という回答はどの層でも変わらず、5割程度見られた。
- 「行動しなかった」という回答は、不合格層では多かったものの、S、A、B、Cではそれほど大きな差はなかった。
- 全体的には、成績が良いほど授業での疑問点は質問で解決しており、予習や復習といった学習時間には長い時間を割いていることが確認できた。

◆B)学習時間比較、成績別比較

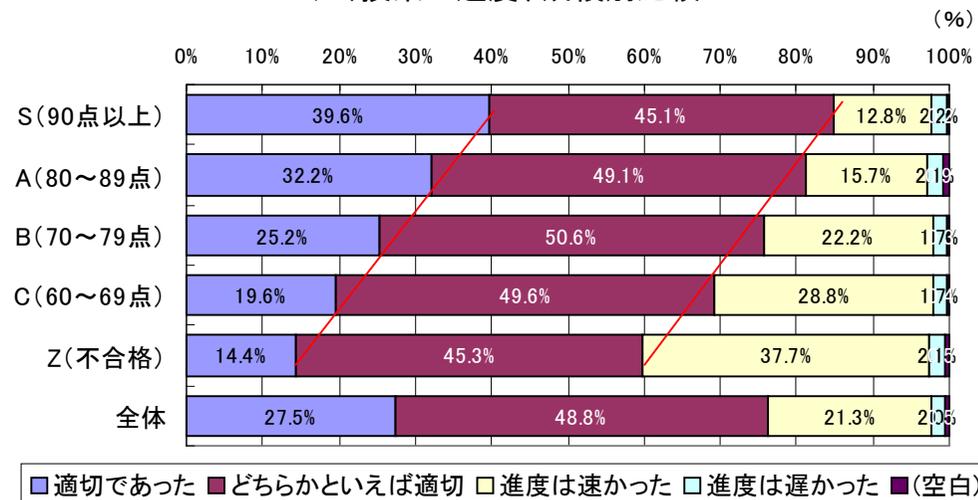


◆C)授業が分からない時の行動、成績別比較



- 授業の進度の評価と成績にも明確な関連性が見られた。
- 成績が良い層ほど、「授業の進度は適切であった」と感じている傾向が明確であった。
- また、成績が悪い層ほど、「授業の進度が速かった」と感じているようであった。
- 成績が良ければ「授業の進度が遅かった」と感じる層がいるかと思われるが、その傾向は見られなかった。

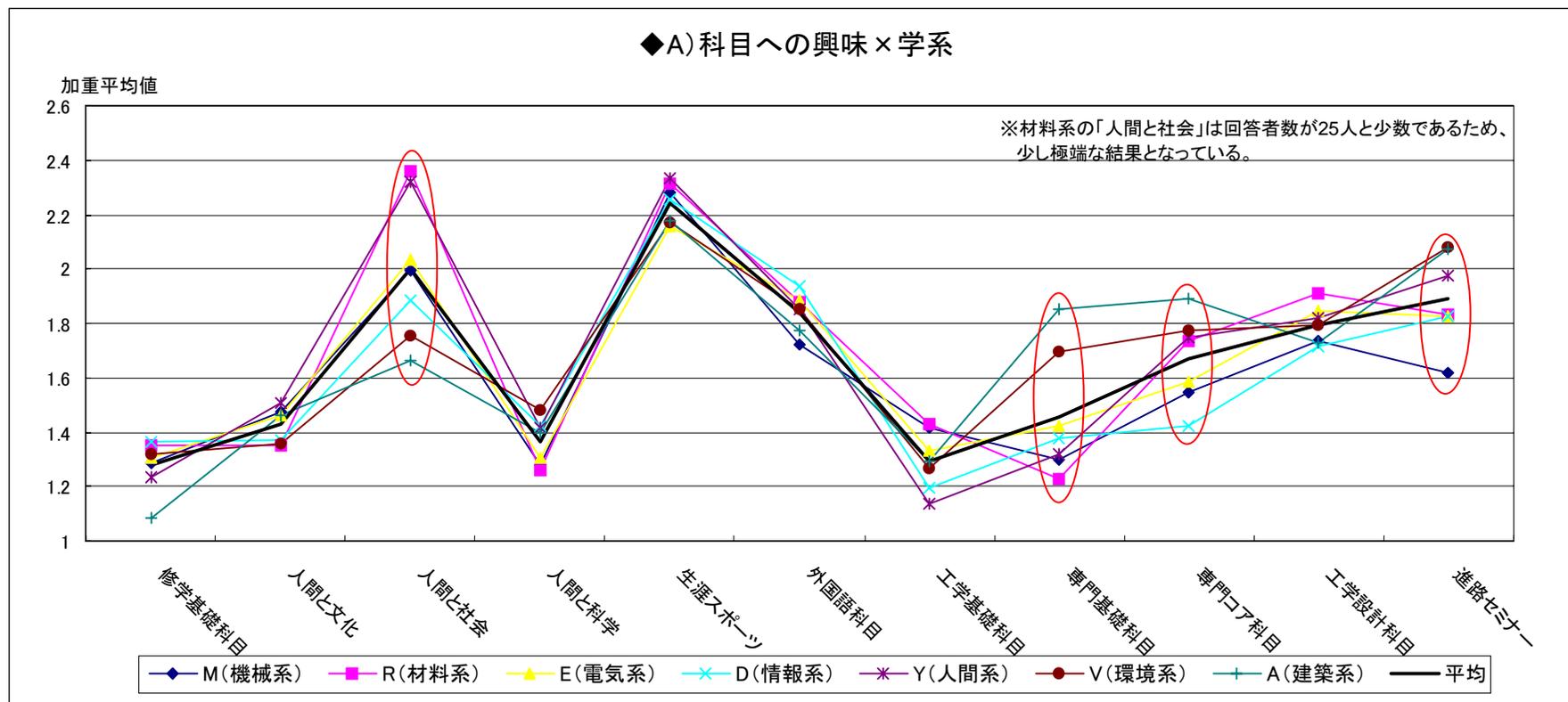
◆F)授業の進度、成績別比較



<8> 学系別科目区分別評価

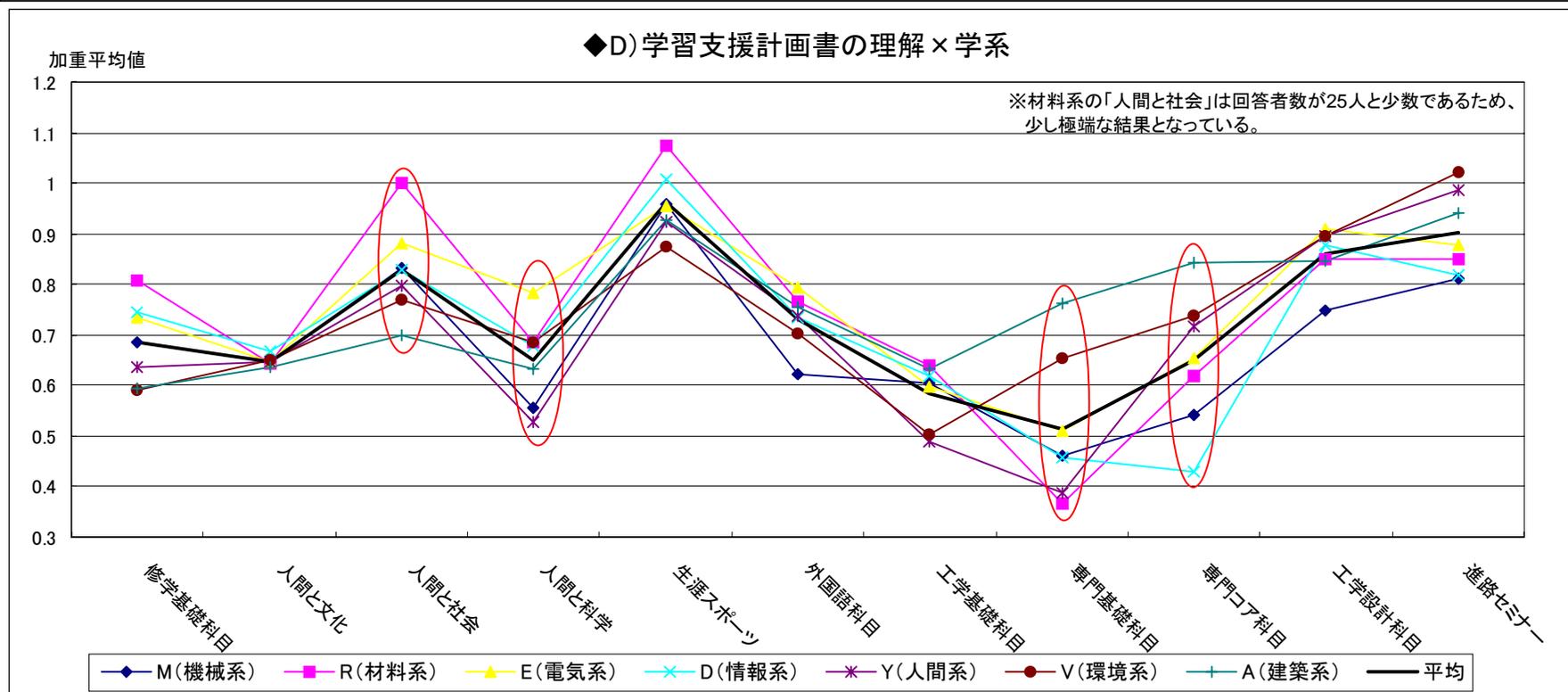
A)この科目は興味を持って受講することができましたか？

- 学系別に科目への興味を見ると、「人間と社会」「専門基礎科目」「専門コア科目」「進路セミナー」でバラツキが見られた。
- 特徴的な面を見ると「人間と社会」には「材料系」「人間系」が興味を持っていた。また、「専門基礎科目」「専門コア科目」「進路セミナー」には「建築系」「環境系」が興味を持っていた。「材料系」は「工学設計科目」にも興味を持っていた。
- 「材料系」は「専門基礎科目」に興味がないなど、科目毎の興味の差が大きかった。同様の傾向は「建築系」にもいえる。
- 「情報系」「機械系」は専門科目に対する興味があまりないという傾向も見られた。
- その他にも多少のバラツキはあったが、全体的に専門分野では学系によるバラツキが大きかったように見受けられる。



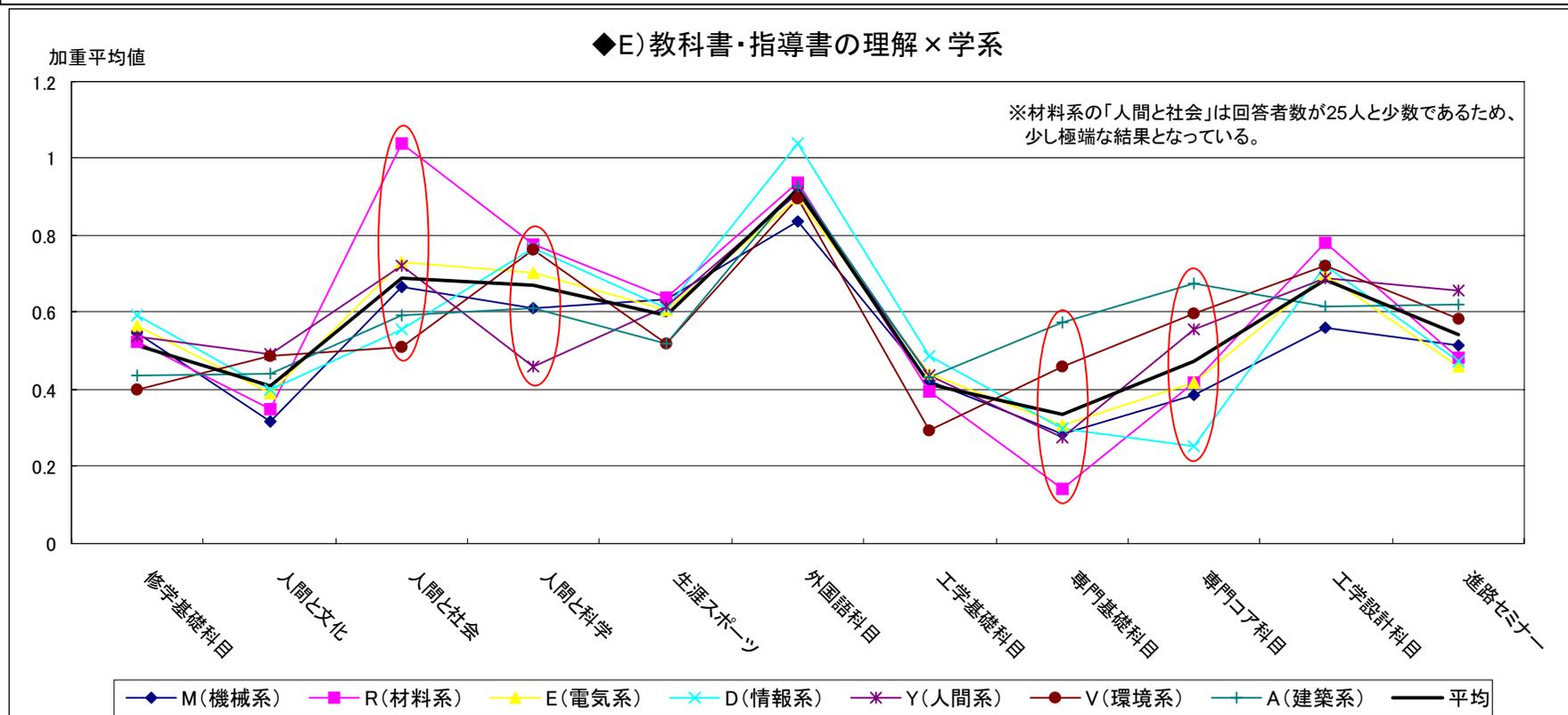
D) 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか？

- 学系別の学習支援計画書の理解度を比較すると、比較的バラツキが大きかったように見受けられる。
- 「機械系」はあまり強い特徴はないが、全体的に平均を下回っており、学習支援計画書の理解度は低めであったといえる。
- 「材料系」は一般科目では平均より高めで専門科目で低めであった。特に「修学基礎科目」「人間と社会」「生涯スポーツ」は高かった。
- 「電気系」は一般科目では平均より高めで専門科目で低めであった。特に「人間と科学」が高かった。
- 「情報系」は概ね平均的であったが、「専門コア科目」「進路セミナー」が低かった。
- 「人間系」は「人間と科学」「工学基礎科目」「専門基礎科目」が低めであり、他の項目は平均的であった。
- 「環境系」は一般科目で少し低めであったが、専門科目は概ね高めであった。特に「工学設計科目」「進路セミナー」が高かった。
- 「建築系」は「専門基礎科目」「専門コア科目」が高めで、その他の項目は平均的であった。



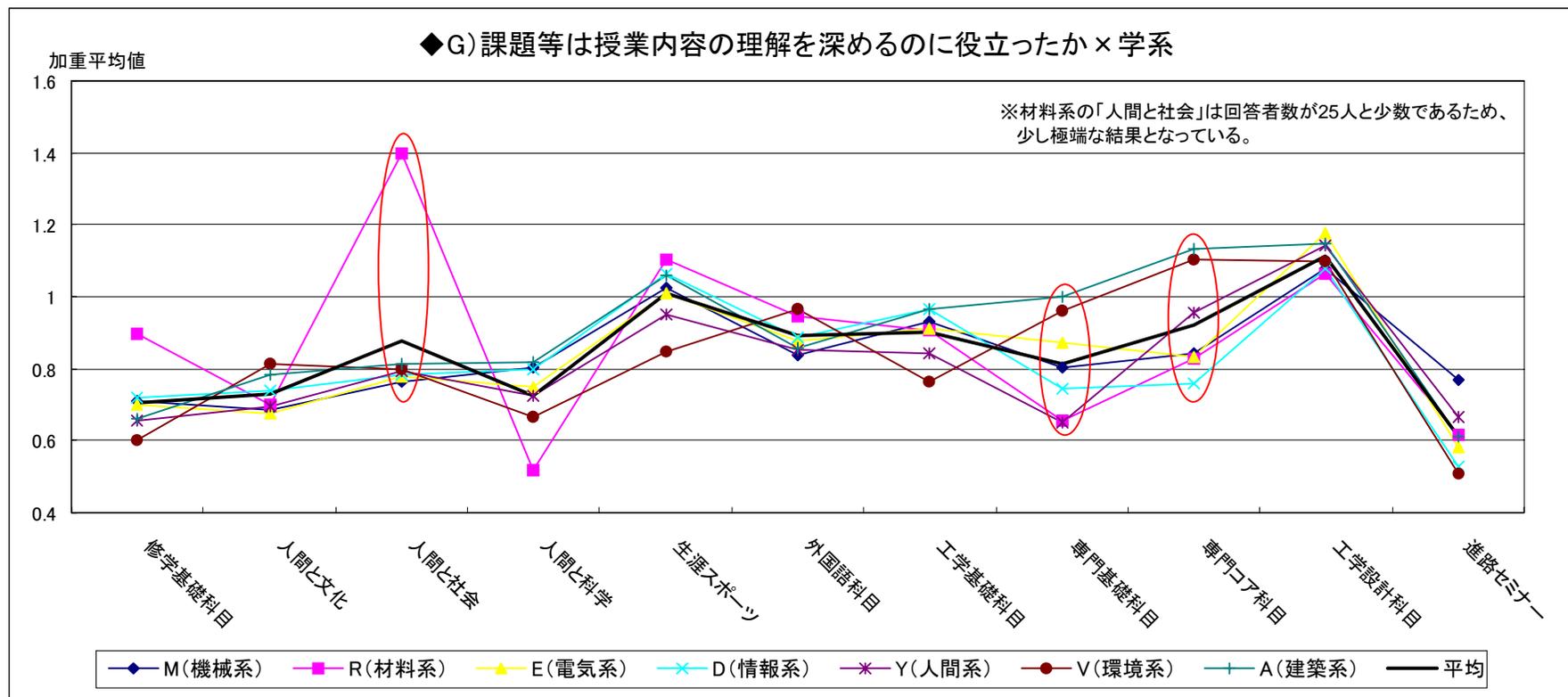
E) 教科書・指導書の内容は理解できましたか？

- 「人間と社会」「人間と科学」「専門基礎科目」「専門コア科目」において学系による差が比較的大きかった。
- 「機械系」は「人間と文化」「生涯スポーツ」「外国語科目」「専門コア科目」「工学設計科目」が低めであり、全体的に平均より低めであった。
- 「材料系」は上下動が激しく、「人間と社会」「人間と科学」「工学設計科目」が高めで、「専門基礎科目」が低かった。
- 「電気系」はあまり特徴がなく、平均と同じような傾向であった。ただ、「進路セミナー」は低めであった。
- 「情報系」は「修学基礎科目」「外国語科目」「工学基礎科目」がやや高めであり、「専門コア科目」が低かった。
- 「人間系」は「人間と科学」が低めであり、「進路セミナー」が高めであった。他の科目は平均的であった。
- 「環境系」は「修学基礎科目」「人間と社会」「生涯スポーツ」「工学基礎科目」などの一般科目が低めであった。
- 「建築系」は一般科目は平均的であり、「専門基礎科目」「専門コア科目」が高めであった。



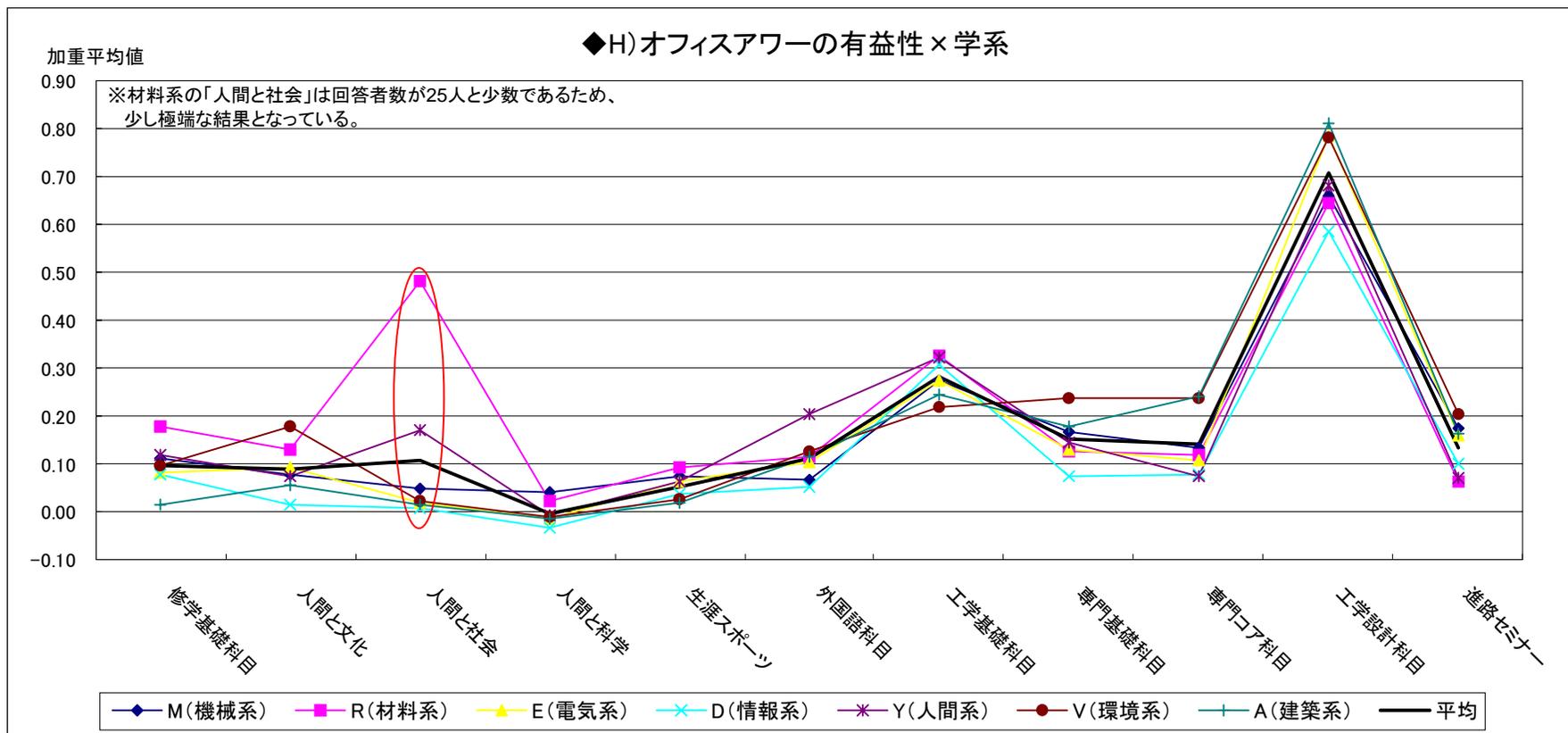
G) 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか？

- 課題等の有益性に関しては、若干のバラツキは見られたものの、それほど大きな差は見られなかった。
- 学系で特徴的であったのは、「材料系」が「修学基礎科目」「人間と社会」「生涯スポーツ」で課題の有益性を認めており、「人間と科学」「専門基礎科目」の評価が低く、評価の差が大きかった。
- 「環境系」も差が出ており、「人間と文化」「外国語科目」と専門科目全般で評価が高く、「生涯スポーツ」「工学基礎科目」「修学基礎科目」で低かった。
- 「建築系」は一般科目は平均的であったが、「専門基礎科目」「専門コア科目」などの専門科目で評価が高かった。
- 他の学系は、多少の上下動はあるが平均的な評価であった。



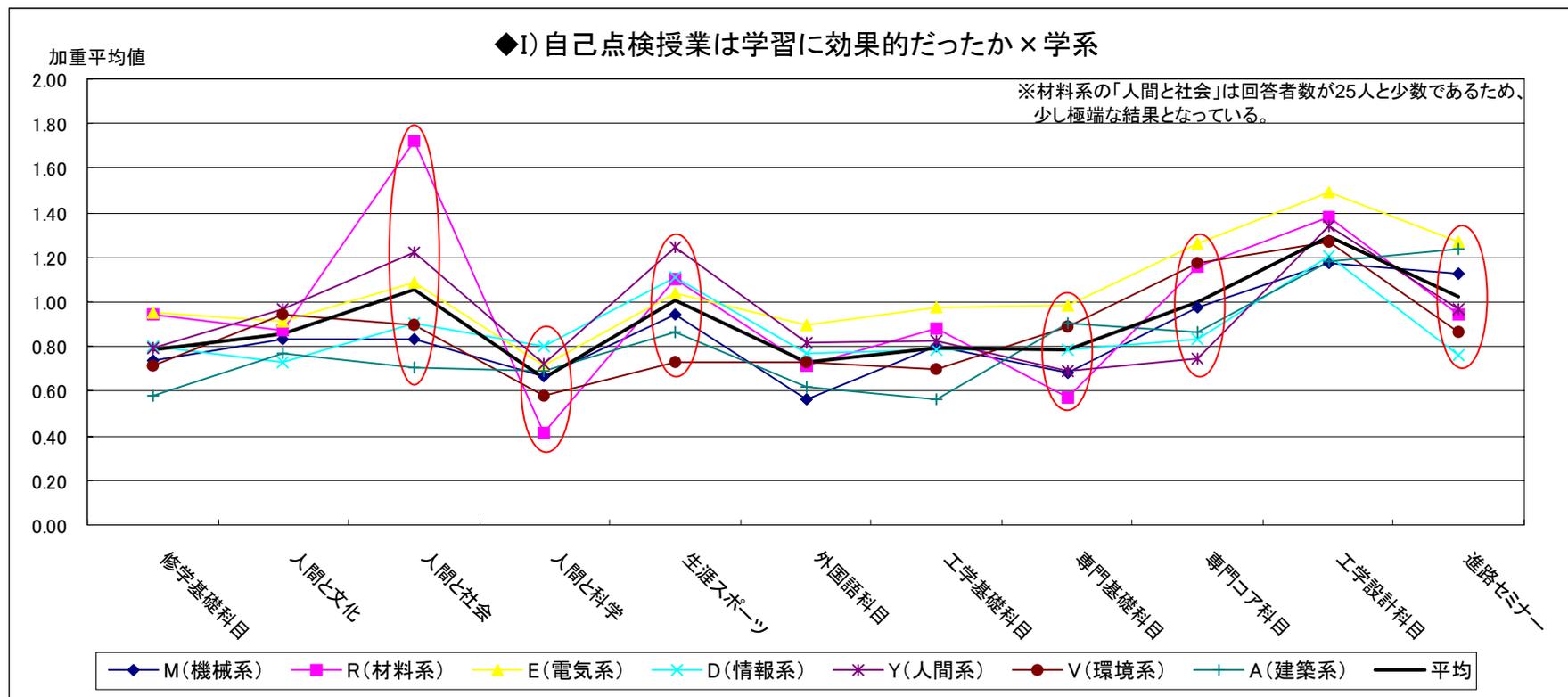
H) オフィスアワーはあなたの学習に有益でしたか？

- オフィスアワー(OH)の有益性に関する評価はバラツキが非常に少なかった。
- 特徴的であったのは「材料系」の「人間と社会」の評価が高かったことである。「材料系」は回答者数が25人と少なかつた影響もあると思われるが、「人間と社会」でOHが有益であると評価していた。
- その他を見るとそれほど目立った特徴は見られなかった。これらより、オフィスアワーの評価は学系によって差がないということがいえる。



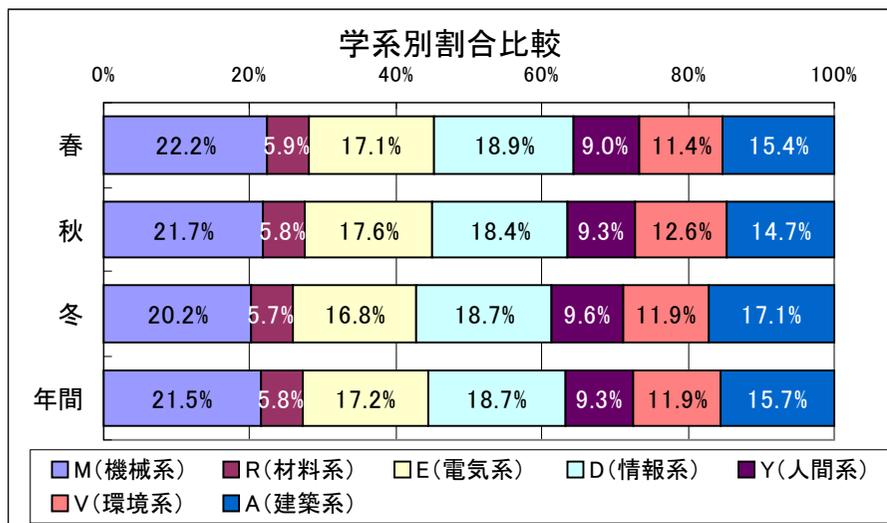
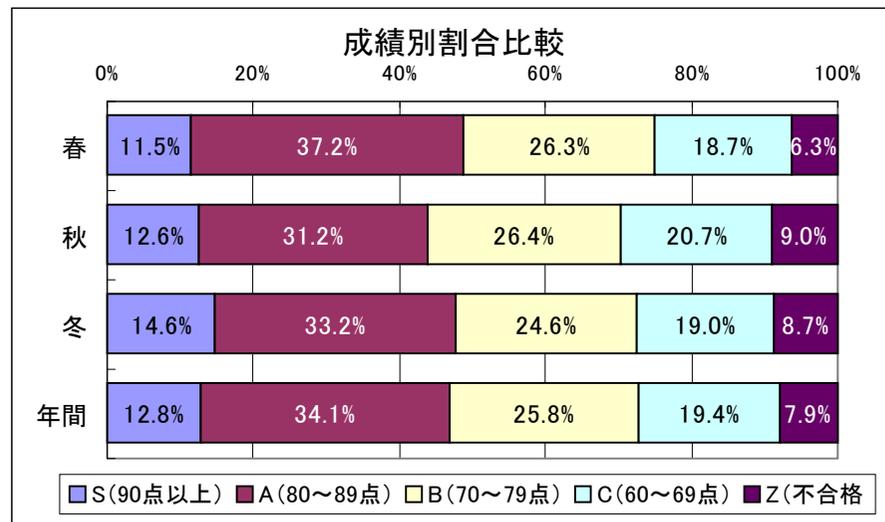
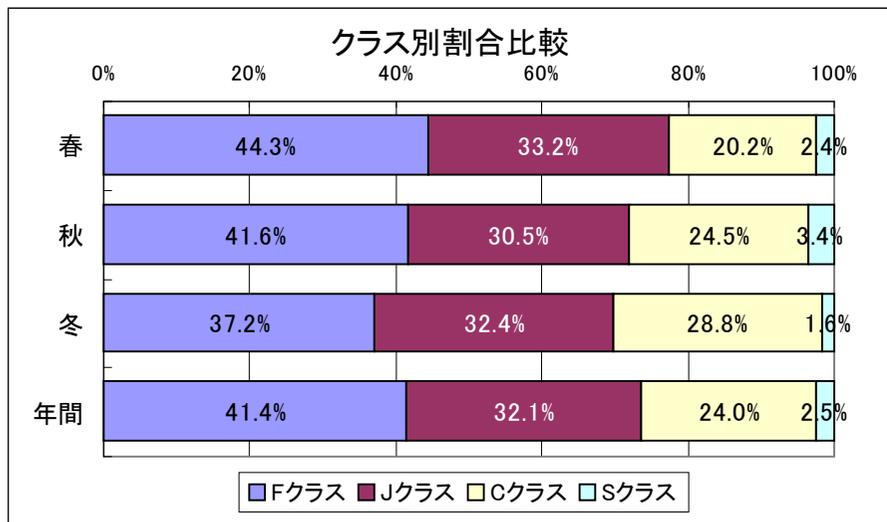
1) 自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか？

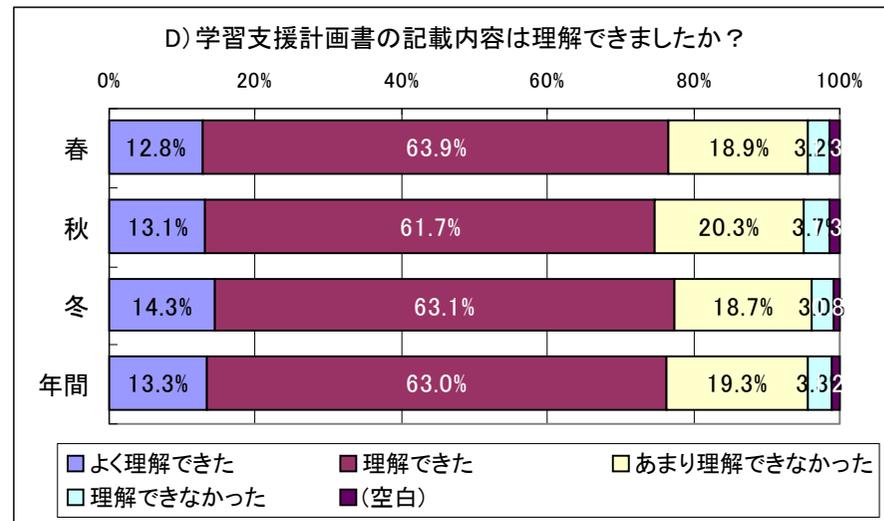
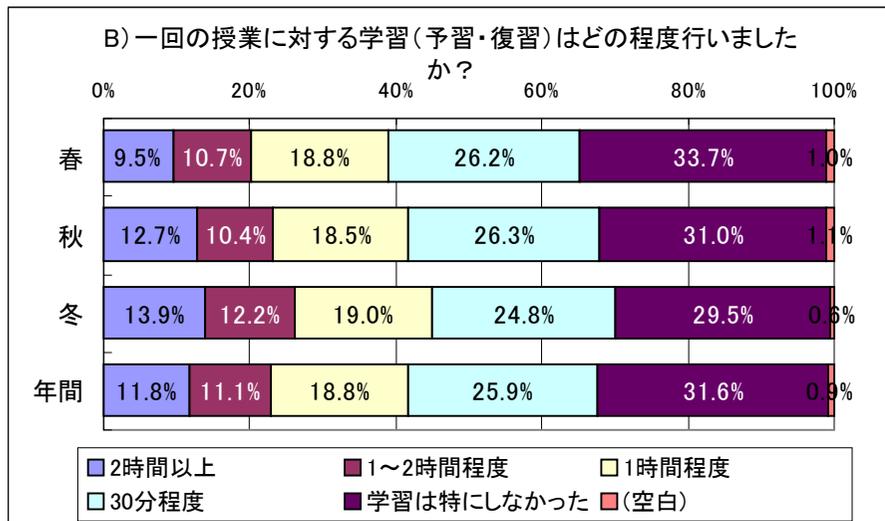
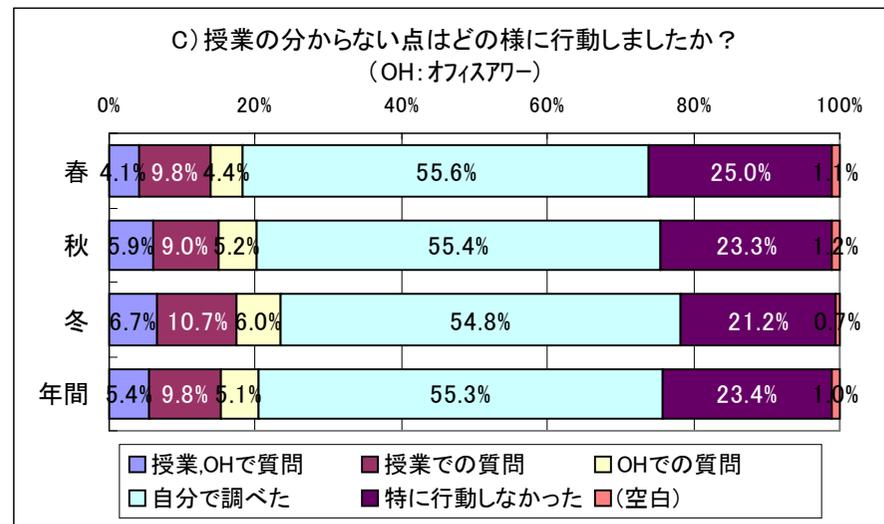
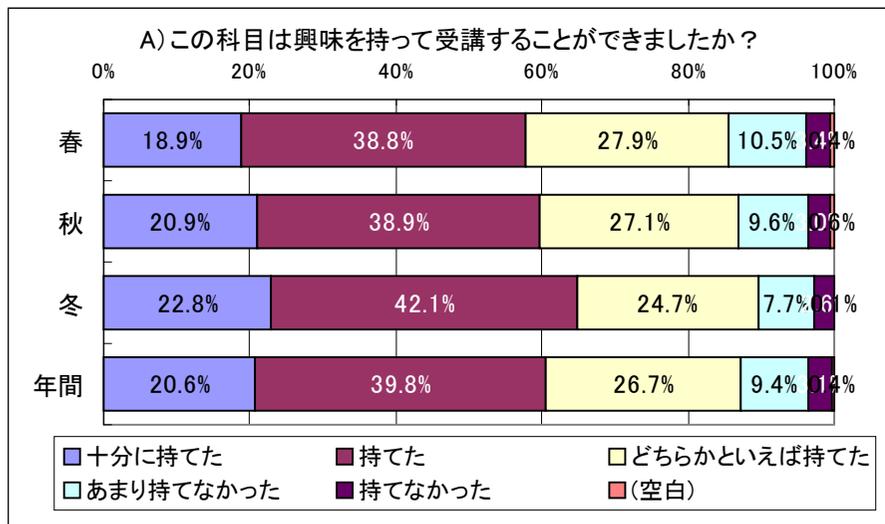
- 自己点検授業の有益性評価は全体的にバラツキが大きかった。特に「人間と社会」で大きめであった。
- 「機械系」は全般的に低めで、自己点検授業はあまり効果的でないと評価していた。特に「外国語科目」で低めであった。
- 「材料系」は上下動が激しく、「修学基礎科目」「人間と社会」では評価が高いが、「人間と科学」「専門基礎科目」では低かった。
- 「電気系」は全般的に高めであり、「工学基礎科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」「工学設計科目」など、専門科目は全て高かった。
- 「情報系」は全般的に平均的であった。ただし、「人間と文化」「進路セミナー」の評価は低かった。
- 「人間系」は平均より少し高めであったが、「人間と社会」「生涯スポーツ」は特に高めであった。
- 「環境系」は平均的であったが、「生涯スポーツ」では評価が低かった。
- 「建築系」は全般的にやや低めであり、特に「修学基礎科目」「人間と社会」「工学基礎科目」が低かった。

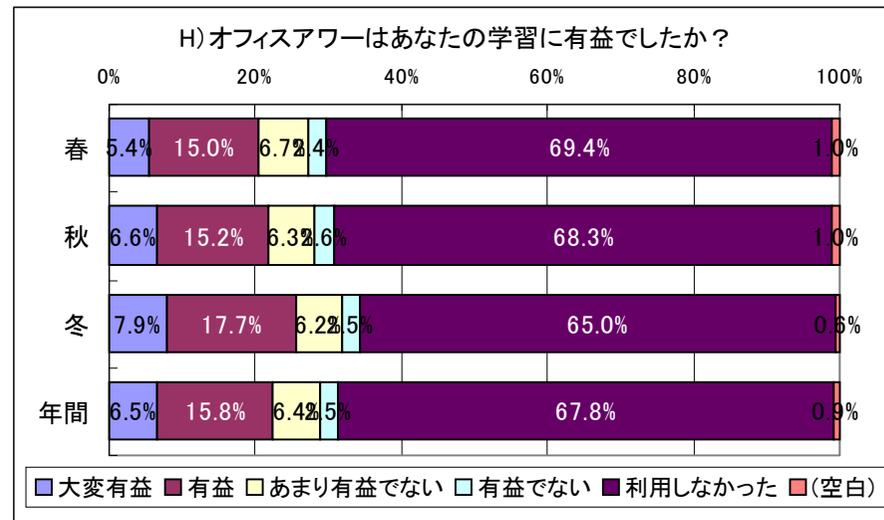
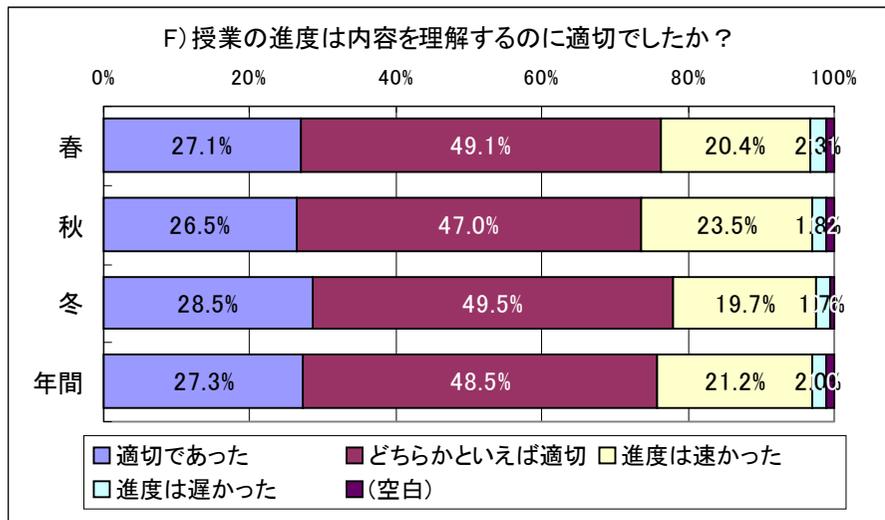
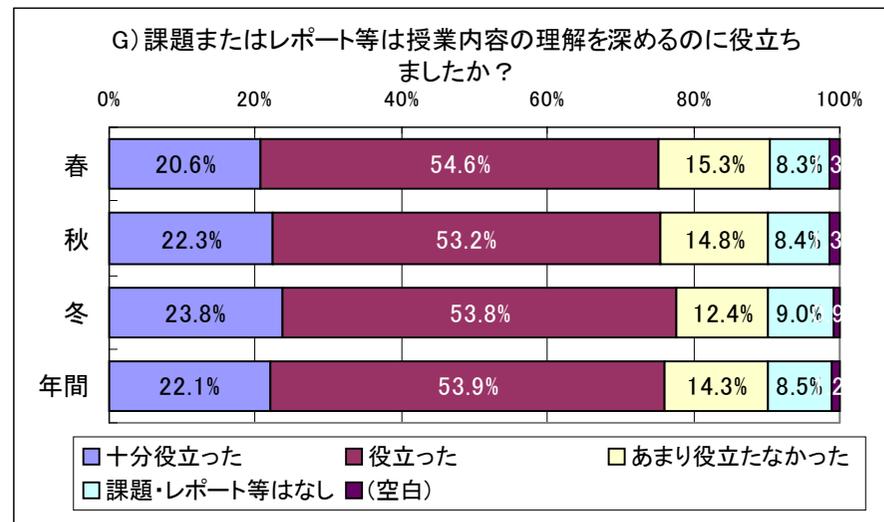
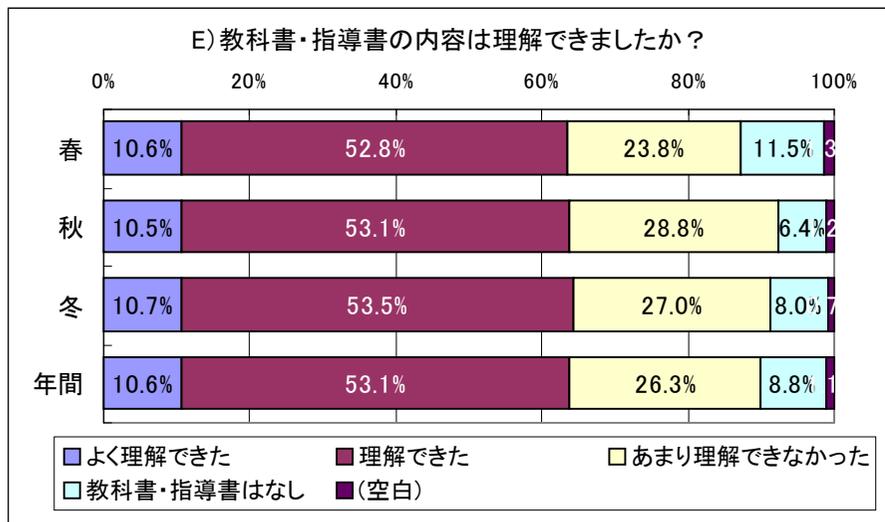


<9> 学期別比較

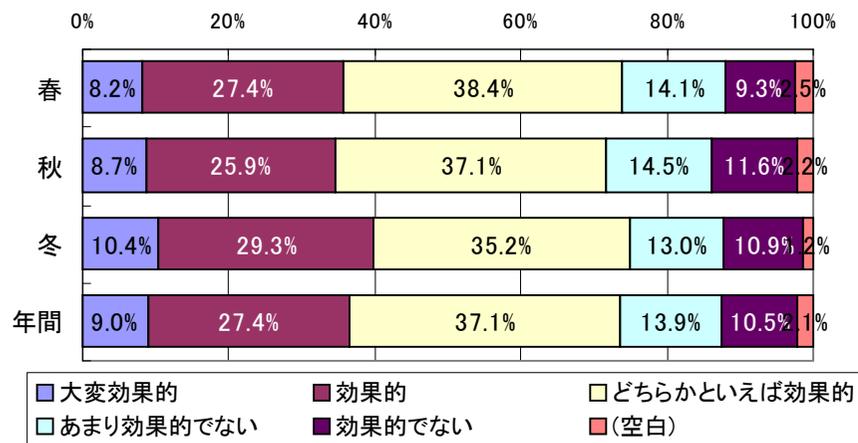
参考のために学期別の比較を行ったが、どの項目も大きな差は見られなかった。







1) 自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか？



<10> まとめ

単純集計から読みとれる内容

- 「科目に興味を持っていた層」を全体で見ると、**87.1%**は多少なりとも興味を持っていたと答えていた。この割合は学期によっても変わらず、常に全体の**9割**が科目に興味を持っていたということであり、評価できる結果ではないかと思われる。
- 授業に関連する各種の理解度も学期による変動はなく、学習支援計画書が理解できなかった層が約**2割**、教科書・指導書が理解できなかった層が約**2.5割**程度であった。この数値は相対的な比較はできないが、教科書等が理解できない学生が全体の**1/4**というのは決して少ない数値ではないと思われる。また、授業に対する予習復習をしていなかったのは約**3割**であり、一部に学習意欲が低い学生がいることも分かった。
- 授業のサポートに関しても学期によって差はなく、課題・レポート、自己点検授業は**8割弱**が役立ったと回答していた。これらは授業のサポートとしては有効であることが分かる。しかし、オフィスアワーは**7割弱**が利用しなかったと回答しており、見直しの必要もあるのではないかと思われる。
- 全体の単純集計から、基本的に授業に対する興味は持っていることが確認できた。しかし、教科書や指導書を理解できていない学生が**1/4**程度いた。今後は、これらの学生の理解度を高めることと、オフィスアワーの運営方法の見直しが必要かと思われる。

クラス別比較から読みとれる内容

- 全学期を通して「オフィスアワーの有益性」「自己点検授業の有益性」は高学年ほど認めているという傾向が明確に現れていた。これは、低学年ほど、オフィスアワーと自己点検授業の活用方法が分かっていないともいえる結果であり、今後の指導の課題になると思われる。
- 「科目への興味」「学習支援計画書の理解」は**F・J**クラス、**C・S**クラスが同じようなポイントとなり、**2つのグループ**を形成していた。**J**クラスは大学に慣れて中だるみがあると思われるが、新鮮な**F**クラスが科目に対する興味が低いという点が気になる。
- 学習時間は高学年ほど長くなる傾向が見られた。しかし、**S**クラスだけは例外で短めであった。これは、専門授業が多くなることや、ゼミ、卒業研究などが影響しているのではないかと思われる。
- これらを見ると、低学年は授業の受け方や学習の仕方に関して慣れていない部分があるようであり、今後の指導の課題になると思われる。また、低学年ほど科目に対する興味自体も低かったが、まず、科目に興味を持たせる工夫も必要ではないかと思われる。

学系別比較から読みとれる内容

- 学期だけでなく年間で学系別の特徴を見ると、積極性が感じられたのは「環境系」と「建築系」であった。特に「建築系」は「科目への興味」「学習支援計画書の理解」「教科書・指導書の理解」など、多くでポイントが高かった。
- 「自己点検授業」に関しては「電気系」が非常に高く評価していた。これがどのような要因によるものなのか研究する必要があると思われる。
- 「材料系」は積極性が感じられず、授業が分からない場合も行動しておらず、学習時間も最も短かった。
- 今回は「環境系」「建築系」「電気系」「人間系」らが積極的であり、「材料系」で積極性が感じられなかった。この結果が年度によるものなのか、学系によって普遍的なものなのか、普遍的なものであればその原因はどこにあるのかといった部分を研究していくことで、学系の雰囲気作りなどに役立つものと思われる。

科目区分別比較から読みとれる内容

- 科目区分で最も興味を持たれていたのは「生涯スポーツ」であった。次いで「人間と社会」「進路セミナー」「外国語科目」であったが、これらを見ると、「興味」というよりも、「分かりやすい」「取り組みやすい」という判断基準にも思える。
- 一方で、興味の度合いが低いのは「修学基礎科目」「工学基礎科目」「人間と科学」などであり、専門性の低いものである。分かりやすいものには興味を持ち、あまり専門性がないものには興味を持っていないと考えられる。
- 「教科書・指導書の理解」では「外国語科目」が突出していた。低いのは「専門基礎科目」「人間と文化」「工学基礎科目」などであり、読んで分かりやすいかどうか、取り組みやすいかどうかの影響しているものと思われる。
- 「課題」「自己点検授業」「オフィスアワー」など、自主的な学習が有効だと考えられていたのは「工学設計科目」であった。また、「工学設計科目」には最も長い学習時間が割かれており、分からない場合は最も積極的に行動していることも分かった。
- 一見すると「生涯スポーツ」や「外国語科目」のような分かりやすい科目には興味を持っているといえるが、実際には「工学設計科目」のような専門科目に最も多くの時間と労力が割かれていることが分かる。今後は、「興味がない」とされていた授業の改善が必要だと思われる。

成績別比較から読みとれる内容

- 年間を通して、成績と各設問には明確な関連性が認められる結果となった。
- 科目への興味に関しては、成績が良いほど興味が大きくなっている傾向が明確に見られた。他の項目も成績が良いほど積極的に取り組んでいるという結果となったが、最も重要なのは「興味」ではないかと思われる。
- 「学習支援計画書」や「教科書の理解度」も成績が良いほど高かった。課題やオフィスアワー、自己点検授業といったサポートの評価に関しても、成績が良いほど評価しているという傾向が見られた。
- 学習時間に関しては、成績が良いほど学習時間を多く取っていることが確認できた。また、授業が分からない際の行動に関しても、成績が良いほど積極的に行動していた。
- 成績の良し悪しは学習の進め方や学習時間による差が直接的な要因であると思われる。しかし、それらの根本になっているのは「科目に対する興味」であることが考えられる。そうすると「どのようにして興味を持たせるか」という面も今後の課題として浮き上がってくる。

授業アンケートは授業の改善を目的に実施するもので成績評価とは一切関係ありません。
各設問の回答中にアンケートで答えた項目番号を記入してください。 1103012011

「自然と倫理」に関する授業アンケート

学籍番号 クラス 番号 氏名

- A. この科目は興味を持って受講することができましたか
- 1十分に持てた 2持てた 3どちらかといえば持てた 4あまり持てなかった 5持てなかった
- B. 一回の授業に対する学習（予習・復習）はどの程度行いましたか
- 1二時間以上 2一〜二時間程度 3一時程度 4三十分程度 5学習は殆どしなかった
- C. 授業の分からない点はどの様に行動しましたか（OH：オフイスアワー）
- 1授業やOHでの質問 2授業での質問 3OHでの質問 4自分で調べた 5特に行動しなかった
- D. 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか
- 1よく理解できた 2理解できた 3あまり理解できなかった 4理解できなかった
- E. 教科書・指導書の内容は理解できましたか
- 1よく理解できた 2理解できた 3あまり理解できなかった 4教科書・指導書はなかった
- F. 授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか
- 1適切であった 2どちらかといえば適切であった 3進度は速かった 4進度は遅かった
- G. 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか
- 1十分に役立った 2役立った 3あまり役立ちなかった 4課題またはレポート等はなかった
- H. オフィスアワーはあなたの学習に有益でしたか
- 1大変有益 2有益 3あまり有益でない 4有益でない 5利用しなかった
- I. 自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか
- 1大変効果的 2効果的 3どちらかといえば効果的 4あまり効果的でない 5効果的でない
- J. 先哲の思想を学び、自己の人生の意義を考えることができますか
- 1十分にできる 2できる 3あまりできない 4できない 5わからない
- K. 人脈を根拠とした、自由にして法を感えない、自己の人間道を自覚することができますか
- 1十分にできる 2できる 3あまりできない 4できない 5わからない
- L. 現代社会において、自然観を涵養し、工学者としての使命感を構築することができますか
- 1十分にできる 2できる 3あまりできない 4できない 5わからない
- M. 恩、感謝の心を持つことができますか
- 1十分にできる 2できる 3あまりできない 4できない 5わからない

授業の中で良いと思った点、改善してほしいと思った点など意見を書いてください。

ご協力ありがとうございました。

平成14年度年間「授業アンケート」 設問A～I 調査結果報告書

平成15年8月31日発行

発行者	学校法人 金沢工業大学
分析・評価	有限会社 アイ・ポイント
編集	金沢工業大学 教育点検評価委員会
